



ネットワークビデオレコーダー

ユーザーマニュアル

法的情報

- 本書には、本製品の使用および管理に関する説明が記載されています。以下、写真、図表、画像、その他すべての情報は、説明のためのものです。
- 本書に記載されている情報は、ファームウェアのアップデートやその他の、予告なく変更される場合があります。本ドキュメントの最新バージョンは、以下のサイトをご覧ください。
Hikvisionのウェブサイト (<https://www.hikvision.com>)。別段の合意がない限り、杭州Hikvision Digital Technology Co., Ltd. またはその関連会社（以下、「Hikvision」といいます）は、Hikvisionのウェブサイト上で、Hikvisionが提供するいかなるサービスも提供しません。
明示または黙示を問わず、保証するものではありません。
- 本書は、本製品のサポートに精通した専門家の指導と支援を受けながら使用してください。

この商品について

- 、購入された国または地域においてのみアフターサービスを受けることができます。
- お選びいただいた商品が映像商品の場合は、以下のQRコードを読み取って「映像商品の利用に関する取り組み」を入手し、よくお読みください。



知的財産権の承認

- に具現化された技術に関する著作権および/または特許は、Hikvisionが所有しています。本書に記載される製品には、第三者から取得したライセンスが含まれる場合がある。
- テキスト、画像、グラフィックス等を含む本書のいかなる部分も、Hikvision に帰属します。書面による許可なく、本書の一部または全部を抜粋、複写、翻訳、改変することを禁じます。
- **HIKVISION** およびその他のHikvisionの商標およびロゴは、さまざまな管轄区域におけるHikvisionの所有物です。

- その他記載されている商標およびロゴは、各所有者の財産です。
-  HDMI, HDMI High-Definition Multimedia Interface、およびHDMI、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。

免責事項

- 適用される法律で許可される最大限の範囲において、本書および記載された製品、そのハードウェア、ソフトウェア、ファームウェアは、「現状のまま」、「すべての欠点およびエラーとともに」提供されます。Hikvisionは、明示または黙示を問わず、商品性、満足のいく品質、特定目的への適合性を含むがこれに限定されない、いかなる保証も行いません。お客様による本製品の使用は、お客様自身の責任において行われるものとします。
リスク。Hikvisionは、契約違反、不法行為、不法行為に基づくか否かを問わず、事業利益の損失、事業の中断、データの損失、システムの破損、ドキュメンテーションの損失など、特別損害、派生的損害、偶発的損害、または間接的損害について、いかなる場合も責任を負いません。
(過失を含む)、製造物責任、その他、製品の使用に関連して、たとえそのような損害または損失の可能性について知らされていたとしても。
- お客様は、インターネットの性質上、固有のセキュリティリスクがあることを認識し、Hikvisionは異常な操作に対していかなる責任も負わないものとします、
サイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウイルス感染、またはその他のインターネットセキュリティリスクに起因するプライバシー漏洩またはその他の損害。ただし、hikvisionは必要に応じて適時に技術サポートを提供します。
- お客様は、適用されるすべての法律に従って本製品を使用することに同意するします。
法律。特に、肖像権、知的財産権、データ保護およびその他のプライバシーを含むがこれらに限定されない、第三者の権利をしない方法で本製品を使用する責任を負うものとします。
権利。大量破壊兵器の開発または生産、化学兵器または生物兵器の開発または生産、核爆発物または安全でない核燃料サイクルに関連する活動、または人権侵害の支援を含む、禁止されている最終用途のために本製品を使用してはなりません。
- 本書と適用される法律の間に矛盾がある場合は、後者が優先されます。

©杭州Hikvisionデジタル技術有限公司。無断複写・転載を禁じます。

規制情報

FCC情報

コンプライアンスに責任を負う当事者によって明示的に承認されていない変更または修正は、装置を操作するユーザーの権限を無効にする可能性がありますのでご注意ください。

FCC準拠：本装置は、FCC 規則パート 15 に従った制限に準拠していることがテストにより確認されています。これらの制限は、住宅用設置において有害な干渉から妥当に保護することを目的としています。本装置は、無線周波数エネルギーを発生、使用、放射する可能性があり、説明書に従って設置および使用されない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置場所で干渉が発生しないことを保証するものではありません。本機器がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こす場合、それは本機器の電源を切ったり入れたりすることで判断できます：

- 受信アンテナの向きを変えるか、位置を変える。
- 機器と受信機の距離を離す。
- 受信機が接続されている回路とは別の回路のコンセントに機器を接続してください。
- 販売店または経験豊富なラジオ/テレビ技術者にご相談ください。

FCC条件

本装置は FCC 規則パート 15 に準拠しています。動作は以下の2つの条件に従う：

- 本装置は有害な干渉を引き起こす可能性はありません。
- このデバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉を受け入れなければなりません。

EU適合性宣言



本製品および付属品（該当する場合）には「CE」マークが貼付されており、EMC 指令 2014/30/EU、LVD 指令 2014/35/EU、RoHS 指令 2011/65/EU に記載された該当する整合欧州規格に準拠しています。

2012/19/EU（WEEE指令）：このマークが付いた製品は、欧州連合（EU）では未分別の一般廃棄物として処分することはできません。適切なリサイクルを行うため、同等の新しい機器を購入した際に本製品を最寄りの業者に返却するか、指定の回収場所で廃棄してください。**詳細については、<http://www.recyclethis.info> を参照してください**



規則 (EU) 2023/1542 (電池規則)：本製品にはバッテリーが含まれており、規則 (EU) 2023/1542 に適合しています。このバッテリーは、EU 域内で未分別の一般廃棄物として処分することはできません。バッテリーの具体的な情報については、製品の説明書を参照してください。バッテリーにはこのマークがあり、カドミウム (Cd) または鉛 (Pb) を示す文字が含まれている場合があります。適切なリサイクルのために、バッテリーをサプライヤーまたは指定の回収返却してください。詳細については、www.recyclethis.info をご覧ください。

対象モデル

本書は、以下の機種およびその派生機種である(B)、(C)、D等に適用します。

シリーズ	モデル
DS-7100NI-Q1/M	DS-7116NI-Q1/M
DS-7600NI-K1	DS-7604NI-K1
	DS-7608NI-K1
	DS-7616NI-K1
DS-7600NI-K1/P	DS-7604NI-K1/4P
	DS-7608NI-K1/8P
DS-7600NI-Q1	DS-7604NI-Q1
	DS-7608NI-Q1
	DS-7616NI-Q1
DS-7600NI-Q1/P	DS-7604NI-Q1/4P
	DS-7608NI-Q1/8P
DS-7600NI-Q2	DS-7608NI-Q2
	DS-7616NI-Q2
DS-7600NI-Q2/P	DS-7608NI-Q2/8P
	DS-7616NI-Q2/16P
DS-7600NI-K2	DS-7608NI-K2
	DS-7616NI-K2
	DS-7632NI-K2
DS-7600NI-K2/P	DS-7608NI-K2/8P
	DS-7616NI-K2/16P
	DS-7632NI-K2/16P
DS-7700NI-Q4	DS-7708NI-Q4
	DS-7716NI-Q4
	DS-7732NI-Q4
DS-7700NI-Q4/16P	DS-7708NI-Q4/8P

シリーズ	モデル
	DS-7716NI-Q4/16P
	DS-7732NI-Q4/16P
DS-7700NI-K4	DS-7708NI-K4
	DS-7716NI-K4
	DS-7732NI-K4
DS-7700NI-K4/P	DS-7708NI-K4/8P
	DS-7716NI-K4/16P
	DS-7732NI-K4/16P

シンボル規約

本書で使用する記号は以下のように定義されている。

シンボル	説明
 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	回避しなければ、機器の損傷、データ損失、性能低下、または予期せぬ結果につながる可能性のある、潜在的に危険な状況を示します。
 注	本文の重要なポイントを強調または補足するための追加情報を提供する。

安全指導

- すべてのパスワードおよびその他のセキュリティ設定の適切な構成は、設置者および/またはエンドユーザーの責任です。
- 本製品の使用にあたっては、国や地域の電気安全規則を厳守してください。
- プラグを電源ソケットにしっかりと接続してください。1つの電源アダプターに複数の機器を接続しないでください。アクセサリや周辺機器を接続したり取り外したりする前に、デバイスの電源を切ってください。
- 感電の危険があります！メンテナンスの前に、すべての電源を切ってください。
- 本機器はアース付きコンセントに接続してください。
- ソケットコンセントは装置の近くに設置し、容易にアクセスできること。
- 危険な通電を示す  危険な通電を示す標識のある装置では、端子に接続される外部配線は、指示された人による設置が必要です。
- 装置を不安定な場所に置かないでください。装置が落下し、重大な人身事故や死亡事故を引き起こす可能性があります。
- 入力電圧は、IEC62368に準拠したSELV（安全特別低電圧）およびLPS（制限電源）を満たす必要があります。
- タッチ電流が大きい！電源に接続する前にアースに接続してください。
- 煙、臭い、ノイズが発生した場合はすぐに電源を切り、電源ケーブルを抜いてから、サービスセンターにご連絡ください。
- デバイスはUPSと併用し、可能であれば工場出荷時に推奨されているHDDを使用してください。
- 本装置は、子供がいる可能性のある場所での使用には適していません。
- 注意：誤った種類のバッテリーに交換すると、爆発する危険があります。
- 電池を飲み込まないでください。化学的火傷の危険性！
- 本製品にはコイン／ボタン電池が内蔵されています。コイン電池を飲み込むとわずか2時間で重度のやけどを負い、死に至る可能性があります。
- 不適切なタイプのバッテリーに交換すると、保護機能が働かなくなることがあります（一部のリチウム電池の場合など）。
- バッテリーを火や高温のオープンに入れたり、機械的に切断したりしないでください。
- 爆発や可燃性液体・ガスの漏えいの原因となります。
- バッテリーを極端に低い気圧にさらさないでください。爆発や可燃性の液体やガスの漏れを起こす恐れがあります。
- 使用済みバッテリーは説明書に従って処分してください。
- ファンブレードやモーターに身体の一部を近づけない。整備中は電源を切ってください。
- 身体の一部をモーターに近づけないでください。整備中は電源を切ってください。
- 元の同じ電源、または同じ電圧と電流のLPS電源のみを使用してください。
- データ漏洩を防ぐため、SSDデバイスを廃棄する前に、安全な消去機能を使用してデータを消去してください。

予防と注意

デバイスを接続し、操作する前に、以下のご注意ください：

- 本機は屋内です。換気がよく、ほこりのない、液体のない設置してください。
- レコーダーがラックや棚に適切に固定されていることを確認してください。レコーダーを落下させ、大きな衝撃を与えると、レコーダー内の繊細な電子部品が損傷することがあります。
- また、花瓶のような液体の入ったものを装置の上に置いてはならない。
- 火をつけたロウソクなどの裸火は、本機の上に置かないでください。
- 換気口を新聞紙、テーブルクロス、カーテンなどで覆って換気を妨げてはならない。ベッド、ソファ、敷物、その他同様のものの上に装置を置いて換気口を塞いではならない。
- 一部のモデルでは、AC電源に接続するための端子の配線が正しいことを確認してください。
- モデルによっては、IT配電システムに接続するために、必要な場合、装置を改造して設計されています。
-  は、電池ホルダ自体を識別し、電池ホルダ内のセルの位置を識別する。
- + 直流電流と共に使用される、または直流電流を発生させる機器のプラス端子を特定する。- は、直流電流と共に使用される、または直流電流を発生させる機器のマイナス端子を示します。
- 電源が切れていたり、置かれていたりするとコイン電池/ボタン電池の電力が切れることがあります。
- コイン電池/ボタン電池の場合、システム時刻が正しくないで、アフターサービスに連絡して電池を交換してください。
- 十分な換気のため、装置の周囲には最低 200 mm (7.87 インチ) の距離を保ってください。
- 特定のモデルについては、AC電源に接続するための端子の配線が正しいことを確認してください。
- 鋭利な角やエッジには触れないでください。
- デバイスが45 °C (113 を超えて動作している場合、またはS.M.A.R.T.のHDD温度が規定値を超えている場合は、デバイスが涼しい環境で動作していることを確認するか、HDDを交換してS.M.A.R.T.のHDD温度を規定値以下にしてください。
- 山頂、鉄塔、森林などの特殊な条件下では、装置の入口開口部にサージサプレッサを設ける。
- デバイスの電源が切れた後も電気が残っている可能性があるため、むき出しの部品（インレットの金属接点など）には触れず、少なくとも5分間待ちます。
- 本装置のUSBポートは、マウス、キーボード、USBフラッシュドライブ、またはWi-Fi dongleの接続にのみ使用される。接続する機器の電流は0.1A以下でなければならない。
- デバイスのシリアルポートはデバッグのみに使用される。
- 装置の電源出力ポートが限定電源に準拠していない場合、このポートから給電される接続装置は、防火管体を備えなければならない。
- デバイスの電源アダプターが同梱されている場合は、同梱のアダプターのみを使用してください。
- ステッカー  または  を貼付した機器については、以下の注意事項にご注意ください：注意：高温

部品！触れないでください。部品を扱う際に指を火傷する。スイッチを切ってから**30分**待ってから部品を扱ってください。

- 装置を壁や天井に設置する必要がある場合は、このマニュアルの指示に従って装置を設置して。
- けがを防ぐため、設置説明書に従って設置確実に取り付けてください。
- 使用温度が高い場合（40℃～55℃）、一部の電源アダプターの電力が低下することがあります。デバイスの配線、取り付け、分解を行う前に、電源が切断されていることを確認してください。
- デバイスを自分で配線する必要がある場合は、デバイスに表示されている電気パラメータに従って、電力を供給するための対応するワイヤーを選択します。対応する、標準的なワイヤーストリッパーでワイヤーを剥く。重大な結果を避けるため、剥いた電線の長さは適切なものとし、導線が露出しないようにしてください。
- 煙、臭い、ノイズが発生した場合は、直ちに電源を切り、電源ケーブルを抜いて、サービスセンターにご連絡ください。

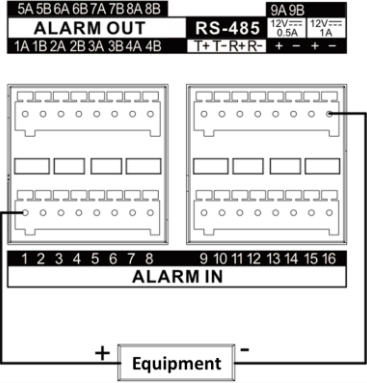
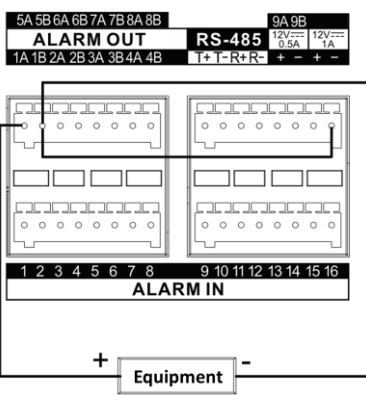
インジケータとインターフェースの説明

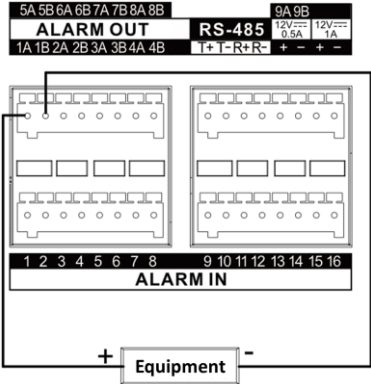
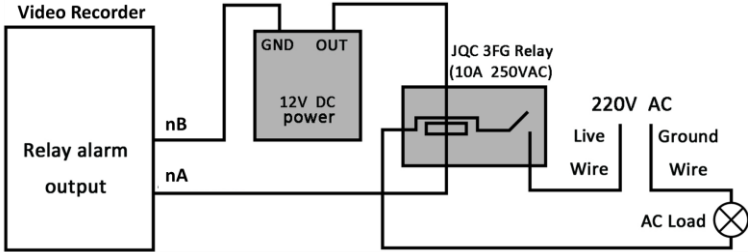
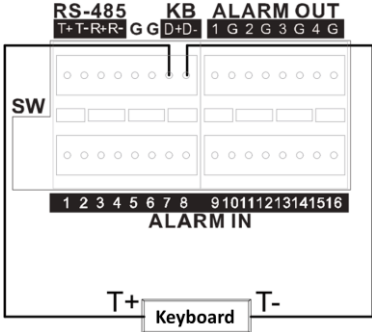
インターフェース

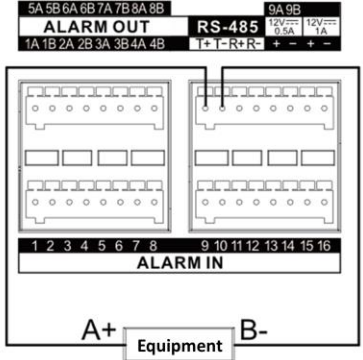
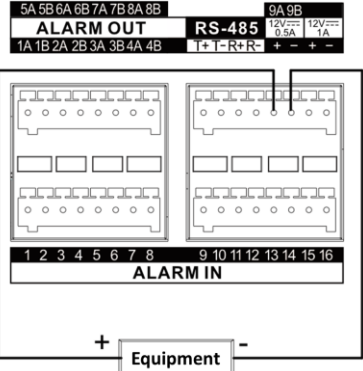
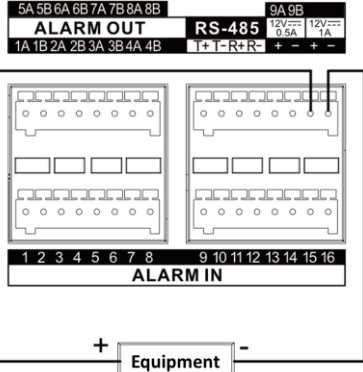
パネル・インターフェースはモデルによって異なります。一般的なインターフェースの説明については、以下の表を参照してください。

表 1-2 共通インジケータの説明

項目	説明
ビデオ・イン	ターボHDおよびアナログビデオ入力用BNCインターフェース。
ビデオ出力	ビデオ出力用BNCコネクタ。
オーディオ入力	オーディオ入力用RCAコネクタ。
オーディオ出力	オーディオ出力用RCAコネクタ。
LINE IN	双方向オーディオ入力用RCAコネクタ。
USB	追加デバイス用ユニバーサル・シリアル・バス（USB）インターフェース。
ブイジーエー	ローカルビデオ出力およびメニュー表示用DB15コネクタ。
HDMI	ビデオ出力用HDMIインターフェース。
RS-485	パン/チルトユニット、スピードドームなどのためのRS-485シリアルインターフェース。
RS-232	パラメータ設定用RS-232インターフェース、またはトランスペアレント・チャンネル。
LAN	RJ-45自己適応型イーサネットインターフェイス。
eSATA	記録やバックアップのためのストレージおよび拡張インターフェイス。
GND	グラウンド
電源スイッチ	デバイスのオン/オフ用スイッチ。
電源	100～240 VAC、48 VDC、または12 VDC電源。
USIMカード	UIM/SIMカードスロット。
▽	SMAアンテナインターフェース。
アラームイン	アラーム入力 アラーム入力はアラーム入力信号を受信します。機器のプラス端子（+）は数字に、機器のマイナス端子（-）は"-"または"G"に接続してください。 アラーム入力の接続例として下図を使用します。

項目	説明
	
警報出力	アラーム出力はアラーム送出します。 直流電源の場合、プラス端子 (+) は "A" の番号に、マイナス端子 (-) は "B" の番号にそれぞれ接続し、 "-" または "G" に接続してください。直流機器の警報出力接続例として、下図を参考にしてください。  AC電源を使用する機器の場合 まず、マイナス端子 (-) は対応する "B" の数字に接続する。 次に、プラス端子 (+) は対応する "A" の数字に接続する。 力接続例として、下図を使用してください。

項目	説明
	 AC負荷電圧が高く可能性があるため、安全のため外部リレーを使用してください。 以下の図を参考にしてください。  Note: n represents a number in nA or nB, n can be 1 to 9.
KB	KBはキーボードを表す。D+とD-をそれぞれ「T+」と「T-」に接続する。下図を参考にしてください。 
RS-485	RS-485は、2線式半二重多地点シリアル接続の電氣的仕様である。T+と「T-」をそれぞれ「A+」と「B-」に接続する。 以下の図を参考にしてください。

項目	説明
	
Ctrl 12V / $\begin{matrix} 12V \\ 0.5A \end{matrix}$	外部アラーム装置用の制御可能な12 VDCおよび0.5/1 A電源出力。対応するアラーム出力がトリガーされると電源がオンになります。 以下の図を参考にしてください。 
DC 12V / $\begin{matrix} 12V \\ 1A \end{matrix}$	DC12V、1Aの電力を出力します。以下の図を参考にしてください。 

HDDの取り付け

ご使用のデバイスがHDDのホットスワップに対応していない場合は、ハードディスクドライブ（HDD）を取り付ける前にデバイスから電源を抜いてください。この取り付けには、工場推奨のHDDを使用する必要があります。以下のQRコードをスキャンすると、HDDの取り付けに関するビデオをご覧いただけます。



図 1-1 HDD の取り付け

ブラケットの取り付け

ブラケット取り付けは、デバイスカバーを取り外し、内蔵ブラケットにHDDを取り付ける必要がある場合に適用されます。

ステップ

1. 背面のネジを外し、カバーを後方に押して取り外します。

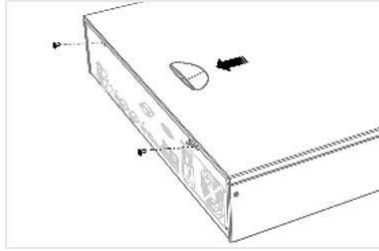


図 1-2 カバーの取り外し

2. HDDをブラケットにネジで固定する。



下層ブラケットにHDDを取り付ける前に、まず上層ブラケットをアンインストールしてください。

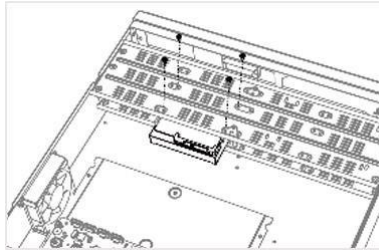


図 1-3 HDD を固定する

3. データケーブルと電源接続する。

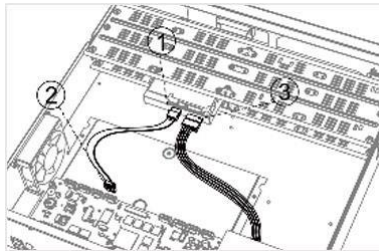


図 1-4 ケーブルの接続



他のHDDを取り付けるには、上記の手順を繰り返すことができます。

4. 装置カバーを再び取り付け、ネジを締めます。

フロントパネルのプラグ・プルの取り付け

フロントパネルのプラグプルインストールは、デバイスのフロントパネルを

キーを押し、HDDを取り付ける。

ステップ

1. 取り付け耳をネジでHDDに固定する。

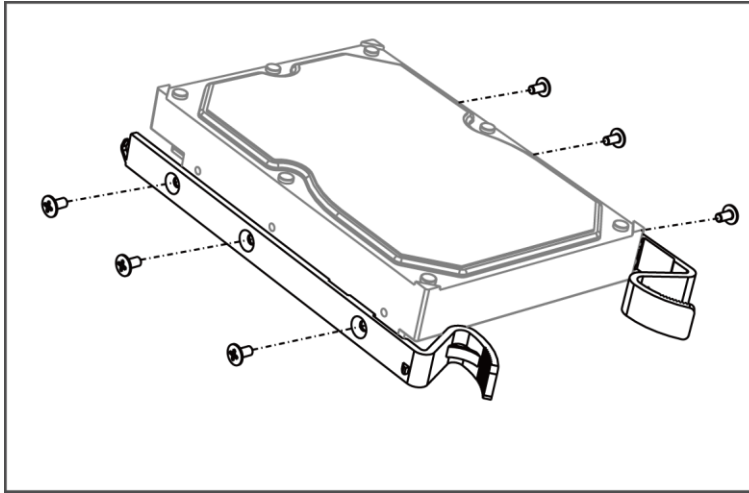


図 1-5 取り付け耳を HDD に固定する

2. 付属のキーでフロントパネルのロックを解除し、フロントパネル両脇のボタンを押して開けます。

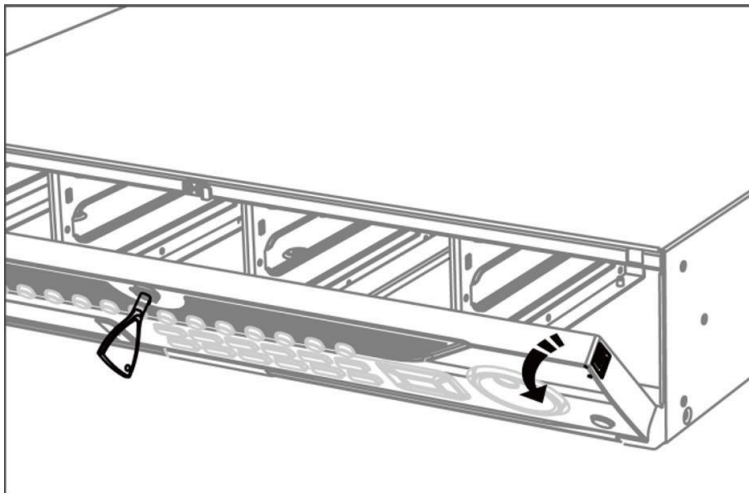


図1-6 オープン・フロント・パネル

3. HDDがしっかりと固定されるまで挿入する。

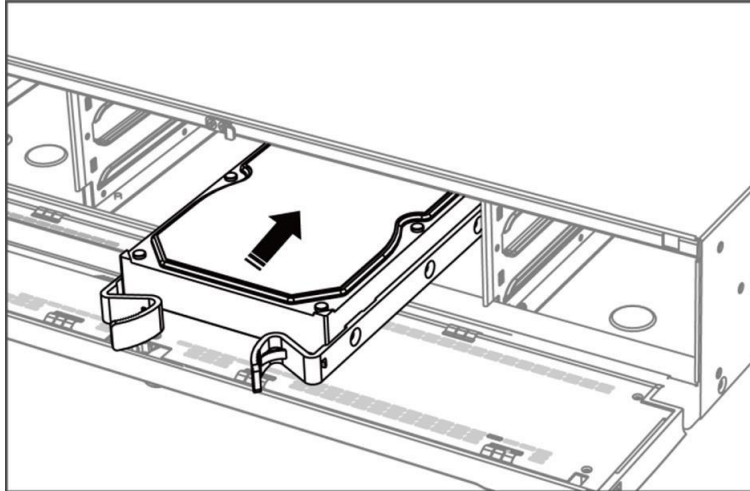


図 1-7 HDD の挿入

4. オプション：他のHDDを取り付けるには、上記の手順を繰り返します。
5. フロントパネルを閉じ、キーでロックする。

HDDケースの取り付け

HDDケースの取り付けとは、HDDをケースに取り付けHDDケースをスロットに差し込む方法を指す。

ステップ

1. パネルキーでフロントパネルのロックを解除する。
2. フロントパネルを装置から引き出し、左ハンドルを少し上にする。



フロントパネルと装置の角度は10°以内でなければならない。

3. 青いボタンを押してハンドルを跳ね上げ、ハンドルを持ったままHDDケースをスロットから引き抜く。
4. ハードディスクをHDDケースに固定する。
 - 1) HDDをケースに入れる。SATAインターフェイスはケース底面を向いている必要があります。
 - 2) HDDの位置を調整します。ハードディスクの背面がHDDの底面と一致していることを確認します。
 - 3) ドライバーを使い、4本のネジを両側のネジ穴に留める。

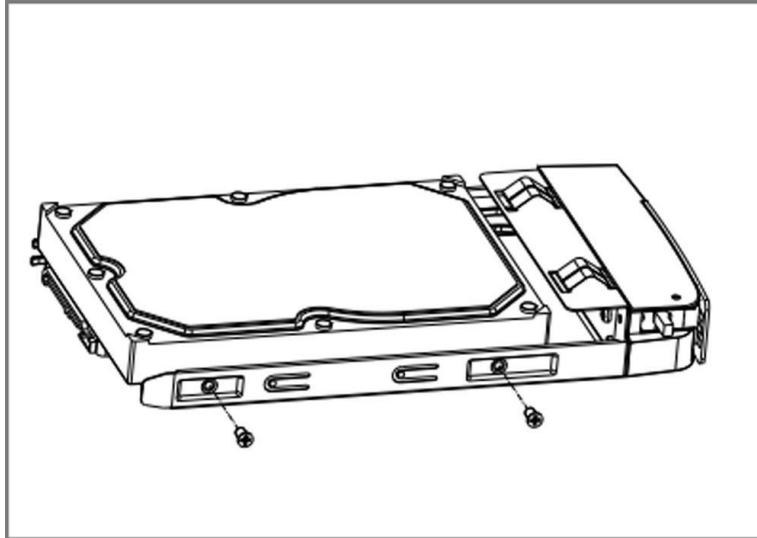


図 1-8 HDD の固定

5. HDDケースをスロットに押し戻す。

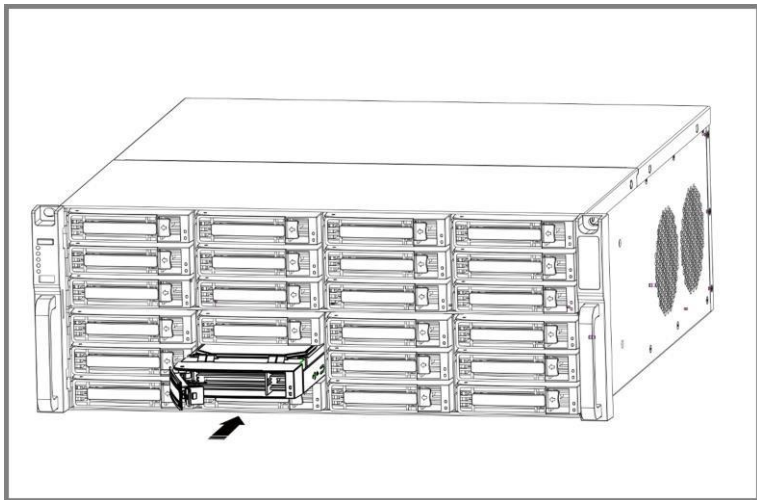


図1-9 HDDケースをスロットに押し込む

6. カチッとするまでハンドルを押す。こうしてHDDケースが固定される。上記の手順を繰り返し、残りのハードディスクボックスを取り付ける。
7. フロント閉じ、パネルキーでロックする。

フィックス・オン・ボトムの取り付け

底面固定設置は、デバイスの底面にHDDを設置して固定する必要がある場合に適用されます。

ステップ

1. パネルのネジを外し、装置からカバーを取り外します。

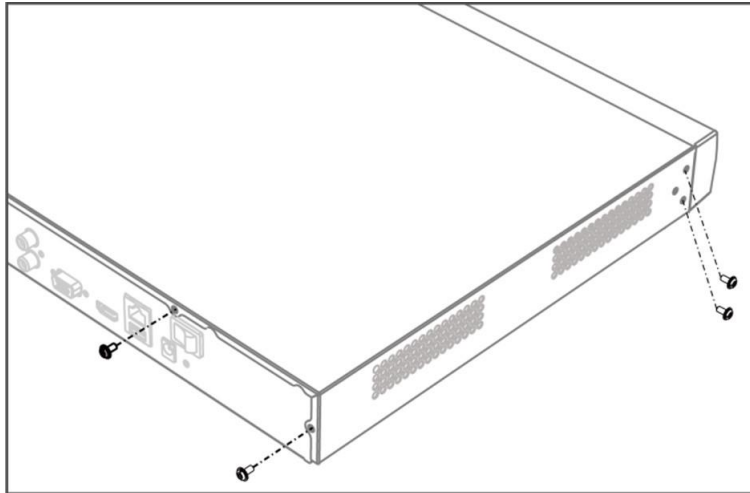


図 1-10 カバーの取り外し

2. データケーブルと電源接続する。

- 1) データケーブルの一端をデバイスのマザーボードに接続する。
- 2) データケーブルのもう一方の端をHDDに接続する。
- 3) 電源ケーブルの一端をHDDに接続する。
- 4) 電源ケーブルのもう一方の端をデバイスのマザーボードに接続する。

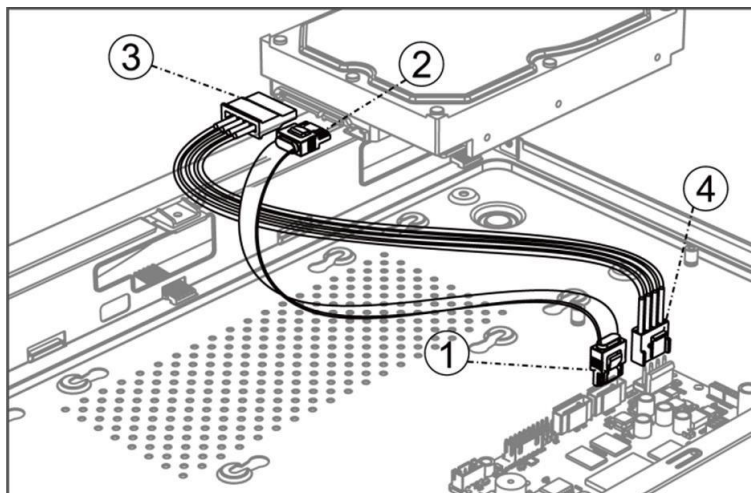


図 1-11 ケーブルの接続

3. デバイスをし、HDDのネジ山とデバイス底面の予約穴を合わせ、HDDをネジで固定する。

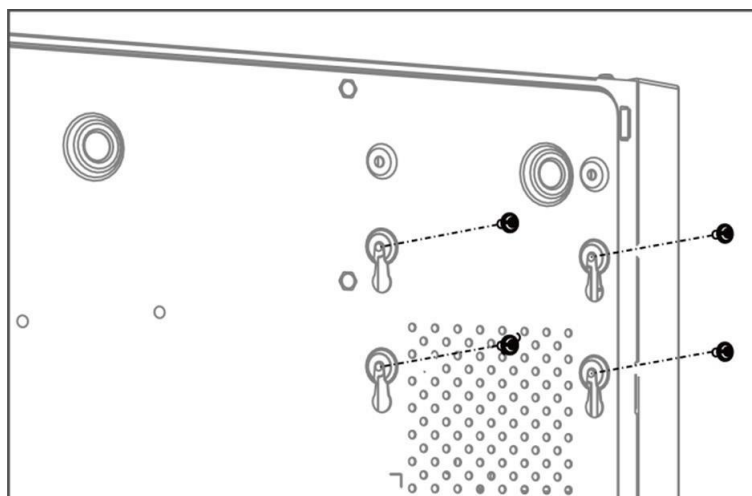


図 1-12 HDD をデバイス底面に固定する

4. オプション：他のHDDを取り付けるには、上記の手順を繰り返します。
5. 装置カバーを再び取り付け、ネジを締めます。

コイン/ボタン電池の交換

コイン電池/ボタン電池は、デバイスの電源が切れていたり、長時間置かれていたりして、システム時間が正しくない場合に交換する必要があります。

始める前に デバイスの電源

をオフにします。 **ステップ**

1. デバイスのシャーシカバーを取り外します。
2. マザーボード上のコイン/ボタン電池を探す。
3. 親指をバッテリースロットの外側に置き、人差し指でプラス側のコンタクトスプリングを外側に軽く押します。バッテリーは自動的に飛び出します。

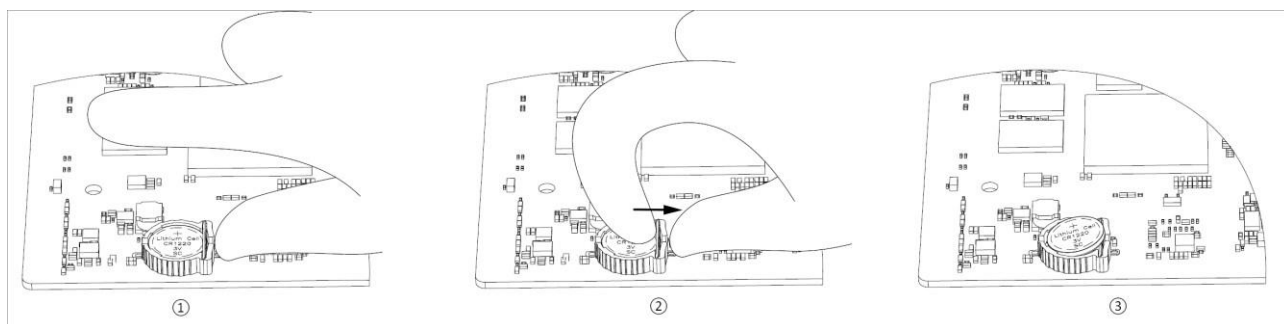


図 1-1 バッテリーの取り外し



バッテリーを取り外す際は、静電気防止手袋を着用してください。

外側に押し出す力が強すぎてスプリングが変形している場合は、バッテリーを挿入する前に元の位置に調整する必要があります。

4. プラスチック製のスナップポイントがバッテリースロットにある側にバッテリーを斜めに挿入し、プラス接点パネの近くでバッテリーを押してパネの下にはめ込みます。

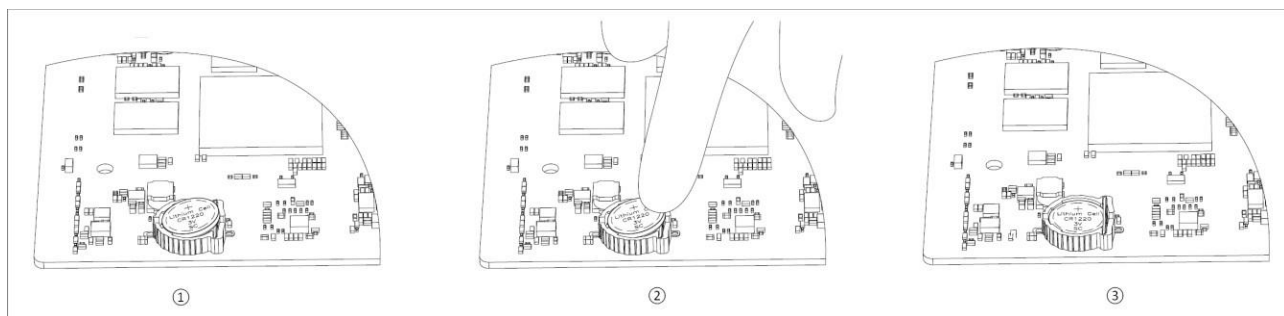


図 1-2 バッテリーの交換



バッテリーを交換する際は、静電気防止手袋を着用すること。

5. デバイスのシャーシカバーを再度取り付けます。

次に何をすべきか

システム時刻が正しくない場合は、時刻の設定を行ってください。

内容

第1章 スタートアップ.....	1
1.1 デバイスのアクティベーション.....	1
1.2 ログイン.....	3
1.2.1 ロック解除パターンでログイン.....	3
1.2.2 パスワードでログイン.....	3
第2章 ライブビュー.....	5
2.1 GUIの紹介.....	5
2.2 PTZコントロール.....	6
2.2.1 PTZパラメータの設定.....	6
2.2.2 PTZコントロールパネルの紹介.....	8
2.2.3 プリセットのカスタマイズ.....	8
2.2.4 パトロールのカスタマイズ.....	8
2.2.5 パターンのカスタマイズ.....	9
第3章 再生.....	10
3.1 GUIの紹介.....	10
3.2 通常再生.....	11
3.3 イベント再生.....	13
3.4 スライス再生.....	14
3.5 バックアップクリップ.....	15
第4章 検索ファイル.....	17
4.1 顔写真でヒトを検索.....	17
4.2 クイックバックアップ.....	19
第5章 コンフィギュレーション（イージーモード）.....	20
5.1 システム構成.....	20
5.1.1 一般.....	20
5.1.2 ユーザー.....	20
5.1.3 例外.....	22
5.2 ネットワーク構成.....	23
5.2.1 一般.....	23
5.2.2 ハイコネクト.....	23
5.2.3 電子メール.....	25

5.3	カメラ	27
5.3.1	ネットワークカメラ	27
5.3.2	osd設定.....	29
5.3.3	モーション検出.....	30
5.4	アラーム連動アクションの設定	31
5.5	アラームスケジュールの設定	31
5.6	デバイス・アクセス	32
5.6.1	スイッチ	32
5.6.2	非映像イベント（イージーモード）	33
5.6.3	IPスピーカー	33
5.7	PoE設定	35
5.7.1	PoE電源の設定.....	35
5.7.2	PoEバインディングの設定.....	36
5.8	レコーディング管理.....	36
5.8.1	記憶装置.....	36
5.8.2	録画スケジュールの設定	38
5.8.3	録画パラメータの設定.....	40
第6章	コンフィギュレーション（エキスパートモード）	41
6.1	システム構成.....	41
6.1.1	一般	41
6.1.2	ライブビュー.....	42
6.1.3	ユーザー	44
6.2	ネットワーク構成.....	45
6.2.1	TCP/IP.....	45
6.2.2	DDNS	46
6.2.3	PPPoE.....	46
6.2.4	ナット	47
6.2.5	NTP.....	48
6.2.6	サーバーへのログのアップロード.....	48
6.2.7	ポート（その他の設定）	49
6.2.8	ハイコネクト	50
6.2.9	ISUP	50

6.2.10	OTAPサービス	52
6.2.11	電子メール	52
6.3	カメラ管理	53
6.3.1	信号入力の設定	53
6.3.2	ネットワークカメラ	53
6.3.3	ディスプレイ設定	59
6.3.4	プライバシー・マスク	61
6.4	デバイス・アクセス	62
6.4.1	スイッチ	62
6.4.2	IPスピーカー	63
6.5	イベント構成	65
6.5.1	通常イベント	65
6.5.2	周辺保護	70
6.5.3	非映像イベント	74
6.5.4	その他のイベント	74
6.5.5	アラームスケジュールの設定	74
6.5.6	アラーム連動アクションの設定	75
6.6	録音管理	77
6.6.1	録画スケジュールの設定	77
6.6.2	録画パラメーターの設定	79
6.6.3	記憶装置	81
6.6.4	ストレージモードの設定	82
6.6.5	詳細設定	83
6.7	顔写真ライブラリ管理	83
6.7.1	顔写真ライブラリを追加する	84
6.7.2	顔写真をライブラリにアップロードする	84
第7章	メンテナンス	85
7.1	アップグレード	85
7.1.1	ローカル・アップグレード	85
7.1.2	オンライン・アップグレード	85
7.2	デフォルトに戻す	86
7.3	検索ログ	86

7.4 システムサービス.....	86
7.5 プザースイッチ	87
7.6 機器メンテナンス.....	88
7.6.1 スケジュール 再起動	88
7.6.2 カメラのアップグレード.....	88
7.6.3 デバイスステータス	88
7.6.4 時間同期診断	88
第8章 アラーム.....	90
8.1 イベントヒントの設定	90
8.2 アラームセンターでアラームを見る	90
第9章 ウェブ操作.....	91
9.1 はじめに.....	91
9.2 ログイン.....	91
9.3 ライブビュー	92
9.4 再生.....	92
9.5 構成.....	93
9.6 ログ	94
第10章 付録.....	95
10.1 用語集.....	95

第1章 スタートアップ

1.1 デバイスのアクティベーション

初めてアクセスする場合は、管理者パスワードを設定してビデオレコーダーをアクティベートする必要があります。アクティベーション前の操作はできません。Web ブラウザ、SADP またはクライアントソフトウェアを使用して、ビデオレコーダーをアクティベートすることもできます。

始める前に

- デバイスの電源を入れます。

初めてアクセスする場合、インターフェイス上でマウスを1動かさないと、解像度は自動的に1280*720/60Hz（720P）に設定されます。

ステップ

1. 言語を選択してください。
2. Apply をクリックする。
3. パスワード」と「パスワードの確認」に同じパスワードを入力する。

The screenshot shows a dark-themed 'Activation' window. At the top, the title 'Activation' is centered. Below it, the 'User Name' field is pre-filled with 'admin'. There are three input fields for password: '*Password', '*Confirm Password', and 'Password Hint'. The 'Password Hint' field has a small text note below it: 'When you forget your password, the hint will help you remember. It is recommended to set the hint.' Below these fields is a toggle switch for 'Unlock Pattern', which is currently turned off. At the bottom left is a 'Shutdown' button. At the bottom center is a line of text: 'Please respect other people's privacy and rights when using product.' To the right of this text are two buttons: 'Activate' and 'Auto'.

図1-1 アクティベーション

警告

強力なパスワードの推奨-製品のセキュリティを高めるため、以下のルールに従ってご自身で強力なパスワードを作成されることを強くお勧めします：

パスワードに以下の文字を含めない：ユーザー名、123、admin、4桁以下の連続した数字、または4桁以下の連続した数字。

数字、大文字、小文字、特殊文字のうち少なくとも2種類が必要です。危険なパスワードは使用できません。パスワードを定期的リセットすることをお勧めします。特にセキュリティの高いシステムでは、毎月または毎週パスワードをリセットすることで、製品をより確実に保護することができます。

4. オプション：パスワードのヒントを設定します。



パスワードを忘れたとき、ヒントを見れば思い出すことが。パスワードのヒントを設定することをお勧めします。

5. オプション：ロック解除パターンを設定します。

- 1) ロック解除パターンを有効にする。
 - 2) マウスを使って、上の9つの点の間にパターンを描きます。模様が描けたらマウスを放します。
-



各ドットは1回のみ接続可能。

- 3) もう一度同じパターンを描いて確認する。つのパターンが一致すれば、パターンの設定は成功です。

6. Activateをクリックする。

7. オプション：ウィザードのすべてのパラメータを自動的に設定するには、Autoをクリックします。

次に何をすべきか

ウィザードに従って基本的なパラメータを設定します。

- 基本的なシステムパラメーターについて。詳細は「一般」を参照。
- 一般的なネットワーク・パラメーター。詳細は「一般」を参照。
- ストレージデバイスの設定。詳細はストレージデバイスを参照。
- ネットワークカメラの追加詳しくはネットワークカメラを参照してください。
- プラットフォーム構成について。詳細はHik-Connectを参照。
- パスワードを忘れた場合の再設定方法は、パスワード再設定メール、Hik-Connect、セキュリティ質問の3種類があります。パスワード再設定方法は設定することができます。詳しくは「パスワード再設定設定するメールとHik-Connectを」をご参照ください。何も設定しない場合は、自動ログイン画面が表示されます。**はい**をクリックすると、パスワードなしでログインできます。

1.2 ログイン

1.2.1 ロック解除パターンによるログイン

ステップ

1. マウスを右クリックして「メニュー」を選択するか、ライブビューでマウスを左クリックします。



図1-2 アンロックパターンを描く

2. あらかじめ設定されたパターンを描いて、メニュー操作に入る。



- パターンを忘れた場合は、「パターンを忘れた場合」または「ユーザーを切り替える」をクリックして、パスワードでログインします。
 - 間違ったパターンを5回以上引いた場合、自動的に通常のログインモードに切り替わります。
-

1.2.2 パスワードでログイン

ビデオレコーダーがログアウトしている場合は、メニューやその他の機能を操作する前にログインする必要があります。

ステップ

1. ユーザー名を選択します。

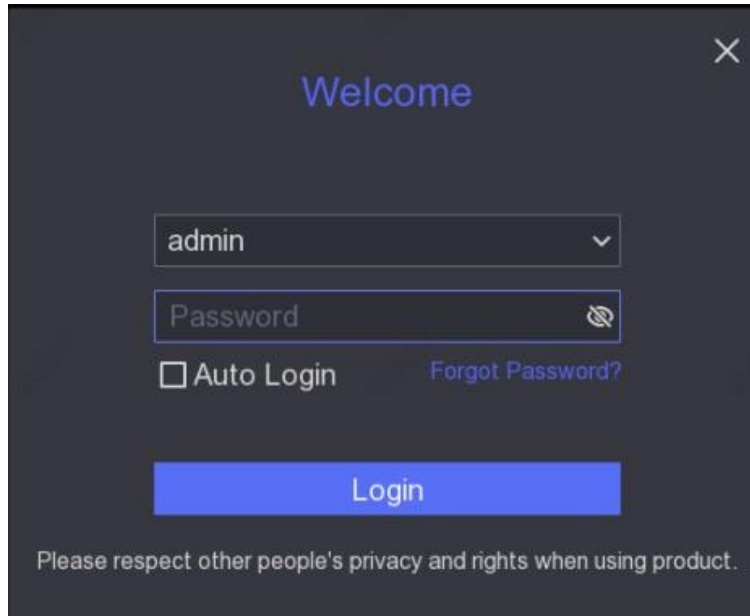


図1-3 ログイン・インターフェース

2. パスワードを入力する。
3. ログインをクリックする。



注

- 管理者のパスワードを忘れた場合は、「パスワードを忘れた場合」をクリックしてパスワードをリセットすることができます。
- 間違ったパスワードを7回入力すると、現在のユーザーアカウントが60秒間ロックされます。

自動ログインにチェックを入れると、パスワードなしでログインできます。

第2章 ライブビュー

2.1 GUIの紹介

- 左上の「Target Detection」をクリックし、 または  を選択すると、指定したライブターゲット検出結果が表示されます。結果の詳細については、[View More] をクリックします。



注

- ターゲット検出は特定のモデルでのみ利用可能。
- ターゲット検出はHDD装着時に有効です。
-  は、動き検出、ライン交差検出、侵入検出、顔キャプチャに有効です。

-  をクリックして、自動切り替えを開始/停止します。画面が自動的に。

-  //  //   division /   //  ライブビューウィンドウを選択する to enter full screen mode.

- カメラをダブルクリックすると、シングル・スクリーン・モードで表示されます。シングル・スクリーンを終了するには、もう一度ダブルクリックします。
モードだ。
- カメラのライブビュー画面を変更するには、そのカメラの画面から希望の画面にドラッグします。
- 上下にスクロールすると、前後の画面に切り替わります。
- カーソルをカメラに合わせるとショートカットメニューが表示されます。



図 2-1 ショートカット・メニュー

表 2-1 ショートカットメニューの説明

ボタン	説明
	最新5分間に録画されたビデオの再生を開始する。
	デジタルズーム。ズームイン時間を調整し、希望のエリアを表示できます。
	クリックするとPTZ制御モードになります。
	ライブビューオーディオのオン/オフ。
	ビデオストリームを切り替える。

- ライブ表示インターフェースでは、各カメラの画面右上にアイコンがあり、カメラの録画とアラームのステータスが表示されます。

表 2-2 ライブビューアイコンの説明

アイコン	説明
	アラーム（通常イベントとスマートイベント）。
	レコーディング

- マウスを右クリックしてショートカットメニューを表示します。

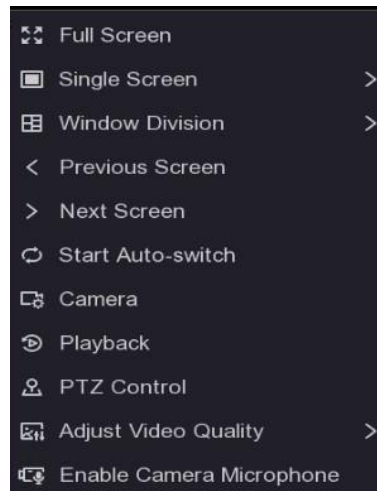


図2-2 右クリックのショートカットメニュー

2.2 PTZコントロール

2.2.1 PTZパラメータの設定

PTZカメラを制御する前に、PTZパラメータを設定する必要があります。

ステップ

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの 。



図2-3 PTZ設定

2.  をクリックする。
3. PTZカメラのパラメータを設定します。

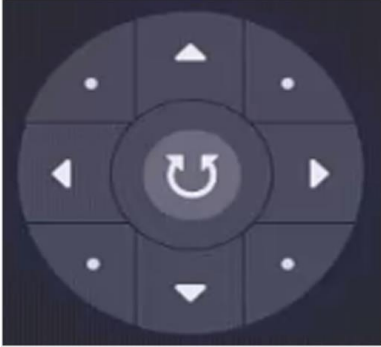


すべてのパラメータはPTZカメラと同じでなければなりません。

4. OKをクリックする。

2.2.2 PTZコントロールパネルの紹介

表2-3 PTZパネルの説明

アイコン	説明
	方向ボタン、オートサイクルボタン。
	PTZの移動速度。
	ズーム -/+.
	フォーカス -/+.
	アイリス -/+.

2.2.3 プリセットのカスタマイズ

イベント発生時にPTZカメラが向けるプリセット位置を設定します。

ステップ

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの 。
2. 希望のプリセットを選択する。
3. 方向ボタンでカメラを必要な移動。ズームとフォーカスはお好みで調整してください。
4.  をクリックする。

次に何をすべきか

プリセットリストでダブルクリックして呼び出します。

2.2.4 パトロールのカスタマイズ

パトロールは指定された順序で一連のプリセットで構成されるパスを指します。複数のプリセットを監視するためのダイナミックなライブ画像を提供します。

ステップ

1. ライブビューでカメラをプレビューし、 ショートカットメニューをクリックします。
2. パトロールをクリック。
3.  クリックする。

4.  をクリックする。
5. キーポイント番号、キーポイント滞在時間、巡回速度などのキーポイント設定します。キーポイントはプリセットに対応する。プリセット番号は、巡回中にPTZが従う順序を決定する。**持続時間**は対応するキーポイントに滞在する時間スパンを指す。**スピード**は、PTZが1つのキーポイントから次のキーポイントに移動するスピードを定義します。

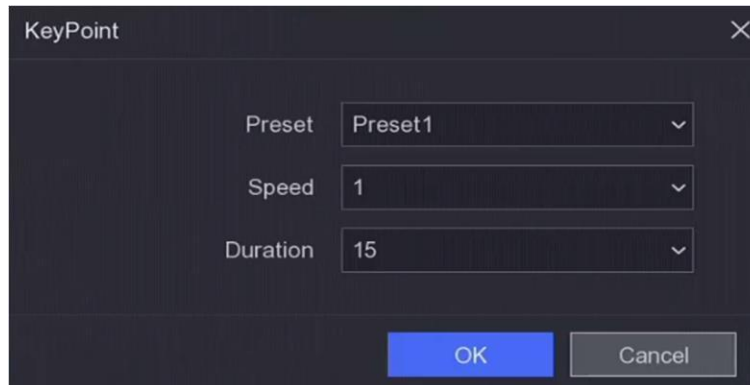


図 2-4 パトロールの設定

6. **OK**をクリックする。
7. **保存**をクリックします。次にすること

パトロールを選択しパスがある。



クリックして呼び出します。PTZカメラは事前に定義されたパトロールに従って移動します。

2.2.5 パターンのカスタマイズ

パターンは、ある移動経路と滞留記録します。パターンを呼び出すと、PTZカメラは記録された経路に従って移動します。

ステップ

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの 。
2. **パターン**をクリックする。
3. パターンを選択する。
4.  をクリックする。
5. 方向ボタンでカメラを必要な移動。ズームとフォーカスはお好みで調整してください。
6.  をクリックします。前のPTZカメラの移動経路がパターンとして記録されます。

次に何をすべきか

パターンを選択し、。PTZカメラは事前に定義されたパターンに従って移動します。

第3章 再生

3.1 GUIの紹介

プレイバックへ。

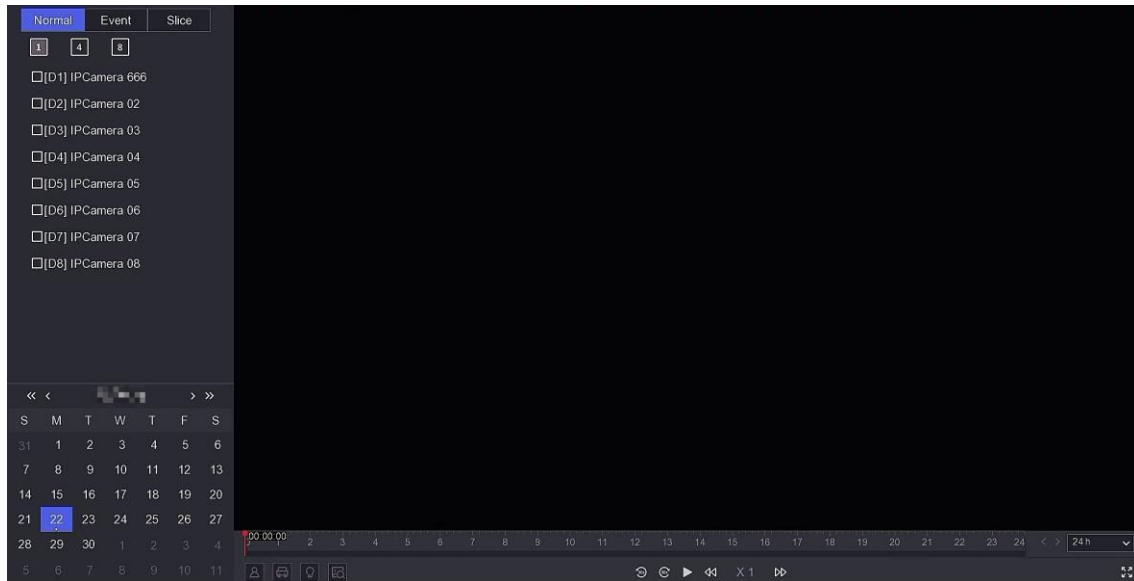


図3-1 再生

表3-1 再生インターフェースの説明

ボタン	オペレーション	ボタン	オペレーション
	30秒のリバース。		30秒前進。
	フルスクリーン		再生を開始する。
	スピードダウン。		スピードアップ。
	スピードだ。		

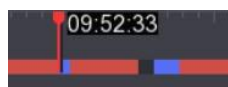


図3-2 タイムライン

- タイムライン上にカーソルを置き、タイムラインをドラッグして特定の合わせる。
- 青いバーで示された期間はビデオを含む。赤いバーは、その期間のビデオがイベントビデオであることを示します。
- タイムラインをズームアウト/ズームインするには、上下にスクロールします。

3.2 通常再生

通常のビデオを再生する。

ステップ

- 1. プレイバックへ。
- 2. カメラカメラを選択します。
- 3. カレンダーの日付を選択して再生する。



カレンダーの日付の隅にある青い三角形は、利用可能なビデオがあることを示します。例えば、10、ビデオがあることを意味します。11、ビデオがないことを意味します。

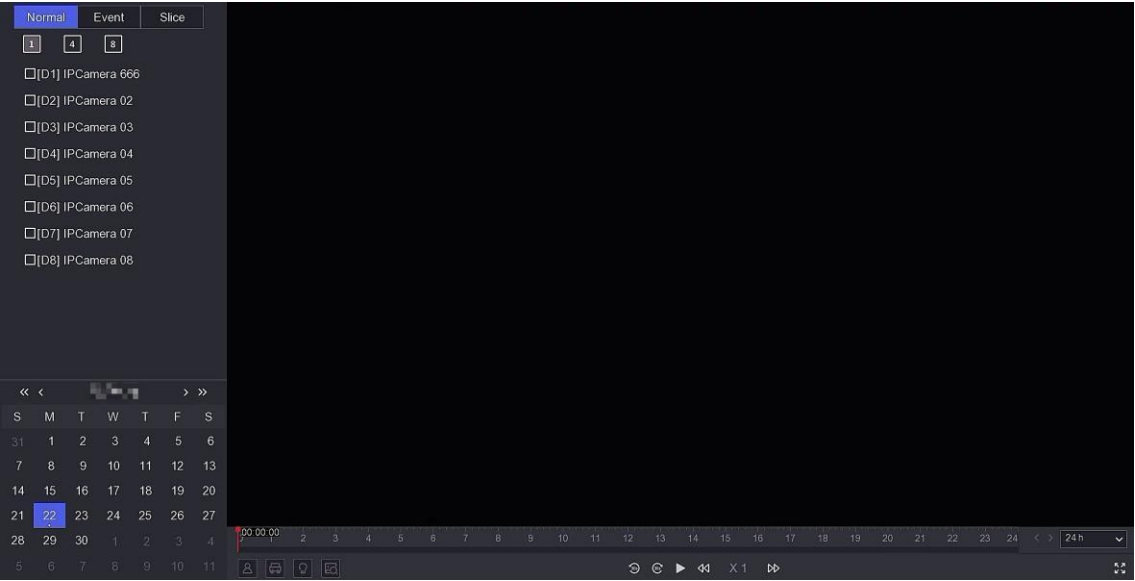


図3-3 再生

- 4. オプション：再生ウィンドウにカーソルを置くと、コントロールバーが表示されます。



図 3-4 コントロールバー 表 3-2 ボタ

ンの説明

ボタン	説明	Butto n	説明
	ウィンドウを分割し、チャンネルをグループ化して再生する。		再生画像を拡大／縮小する。

ボタン	説明	Butto n	説明
	オーディオのオン/オフ。		タグを追加
	ビデオのロック/ロック解除。		クリップビデオ
	人間を含むビデオを見せる。		車両を含むビデオを見せる。
通常のビデオをスキップする	をクリックした場合  /  、デバイスは他のビデオを非表示にし、再生中に人間または車両を含むビデオのみを表示および再生します。		ルールフレームとターゲットフレームを表示する。
	スクリーンサイズに応じて、画像表示効果を調整します。	スマートサーチ()	 /をクリックした場合。  をクリックした場合は  をクリックし、検索エリアを設定することで、このエリアの人/車両情報を素早く検索することができます。
	ボタンをクリックすると、ターゲットが画面に表示されます。ターゲットをクリックすると、ターゲットを含む写真が検索れます。写真をクリックすると、その瞬間の前後のビデオが再生されます。		マルチウィンドウ分割再生。

ボタン	説明	Butto n	説明
	 注 この機能を使用する前に、現在のチャンネルのAcuSearchアルゴリズムを有効にする必要がある。		

3.3 イベント再生

イベント再生モードを選択すると、システムは動体検知、踏切検知、または侵入検知情報を含むビデオを分析し、マークを付けます。

始める前に

- カメラが**Dual-VCA**を有効にしていることを確認します。カメラのウェブブラウザのインターフェースから、**設定→ビデオ/オーディオ→ストリームの表示情報**で有効にできます。
- ビデオレコーダーが**VCAデータの保存**を有効にしていることを確認してください。**設定→レコード→アドバンス**。

ステップ

1. プレイバックへ。
2. イベントをクリックする。
3. カメラを選択します。
4. 再生ウィンドウ上にカーソルを置き、コントロールバーを表示する。

表 3-3 ボタンの説明

ボタン	説明	ボタン	説明
	タグを追加		再生画像を拡大／縮小する。
	クリップビデオ		ビデオのロック/ロック解除。
	検出エリアを設定する。		オーディオのオン/オフ。

5.  をクリックして、踏切検知、侵入検知、動体検知の検知エリアを設定します。
6. クリック  をクリックして動画を検索します。検出ルールを満たす動画は赤で表示されます。
7. をクリ  する。 をクリックしてプレー戦略を設定する。

通常のビデオをスキップする

これを有効にすると、スマート情報のないビデオは再生されない。

ノーマルビデオ

通常動画の再生速度を設定します。このオプションは、「**通常のビデオを再生しない**」のチェックが外れている場合のみ有効です。

スマート/カスタムビデオの再生速度

スマート情報付き動画の再生速度を設定します。このオプションは、「**通常動画を再生しない**」が有効な場合のみ有効です。

3.4 スライス再生

ビデオをスライスに分割してする。

ステップ

1. Playback→ Slice Playback に進む。



図3-5 スライス再生

2. カメラカメラを選択します。
3. カレンダーの月、日付、時間を選択して再生する。



カレンダーの日付の隅にある青い三角形は、利用可能なビデオがあることを示します。例えば、**10** は動画があることを意味します。**11** は動画がないことを意味します。

検索された映像は1時間ごとに分割されて再生される。

4. オプション：1時間のスライスを選択し、、1分のスライスに分割して再生する。
5. スライスをクリックすると、右側のビデオが再生される。

表 3-4 スライス再生アイコンの説明

アイコン	名称	説明
	アキュサーチ	ボタンをクリックすると、ターゲットが画面に表示されます。ターゲットをクリックすると、含む写真が検索されます。写真をクリックすると、その瞬間の前後のビデオが再生されます。
	ビデオの輸出	クリックしてビデオをエクスポートします。
	VCA情報を表示する	ルールフレームとターゲットフレームを表示する。  注 前提条件チャンネルが追加され、プレビュー可能であること。カメラまたはデバイスでVCAの設定が完了していること。
	自己適応解像度を有効にする	画面サイズに応じて画像表示効果を調整します。
	オーディオ・コントロール	オーディオのオン/オフ、ボリュームの調整。

3.5 バックアップクリップ

再生中に動画をクリップできます。ビデオクリップはバックアップデバイス（USBメモリーなどエクスポートできます。

始める前に

バックアップデバイスをビデオレコーダーに接続します。

ステップ

1. 再生を開始します。詳しくは「通常再生」をご参照ください。
2.  をクリックする。

3. 開始時間と終了時間を設定する。タイムバーのカーソルを調整して期間を設定することもできます。
4. **保存**をクリックする。
5. バックアップデバイスとフォルダを選択します。
6. バックアップデバイスにクリップをエクスポートするには、**[保存]**をクリックします。

第4章 検索ファイル

ステップ

1. 検索する
2. 検索タイプ（ビデオ、画像、イベントなど）を選択します。
3. 検索条件を設定する。
4. オプション：クイックバックアップをクリックすると、ビデオをすばやくデバイスにエクスポートできます。



注

クイック・バックアップはビデオとイベント検索に利用できる。

5. 検索をクリックする。
 - － クリック  クリックしてください。
 - － をクリック  する。 をクリックしてファイルをロックします。ロックされたファイルは上書きされません。
 - － ファイルを選択し、エクスポートをクリックしてファイルをバックアップデバイスにエクスポートします。

4.1 顔写真でヒトを検索

提供された顔人物の記録を検索することができる。

始める前に

顔写真の有効になっていることを確認してください。

ステップ

1. →ヒューマンを検索する。

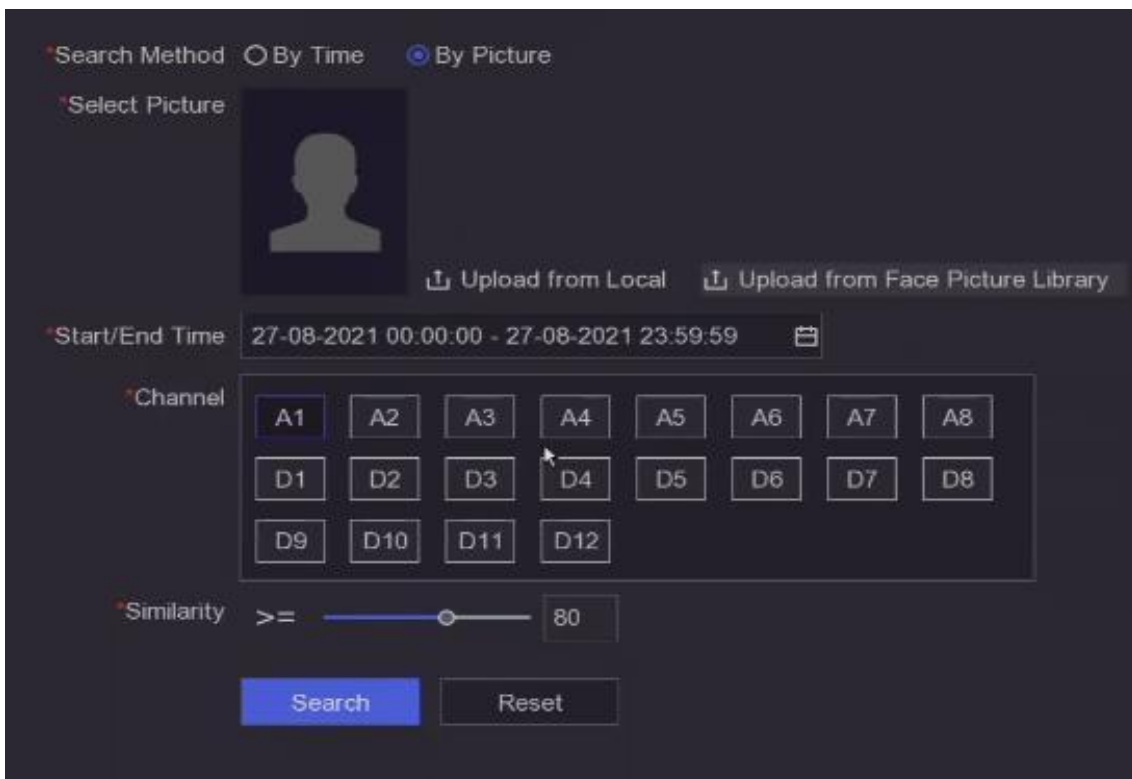


図4-1 顔から人間を探す

2. 検索方法を画像で設定します。
3. 顔写真をアップロードする。
 - ー ローカルからアップロード]をクリックすると、USBメモリなどのローカルストレージから顔アップロードできます。
 - ー 顔写真ライブラリからアップロードするには、「顔写真ライブラリからアップロード」をクリックします。



- JPGとJPEG形式のみサポート。
- 各画像のサイズは1MB以下であること。
- 画像解像度は80×80から1920×1080の間でなければならない。

4. 開始時刻と終了時刻を設定する。

5. セットの類似性類

似性

類似度の値は0から100の範囲です。デバイスは検出された顔画像とライブラリ内の顔画像を比較します。類似度が閾値に達すると、顔画像の比較は成功し、顔画像が認識されます。

6. 検索をクリックする。

4.2 クイック・バックアップ

始める前に

バックアップデバイスをビデオレコーダーに接続します。

ステップ

1. 検索する
2. 検索条件を設定する。
3. **クイックエクスポート**をクリックします。
4. バックアップデバイスと選択します。
5. **OK**をクリックしてエクスポートを開始します。

第5章 コンフィギュレーション（イージーモード）

イージーモードには基本的な設定が含まれています。**Configuration（設定）**に進み、「**Easy Mode（イージーモード）**」をクリックします。

5.1 システム構成

5.1.1 一般

出力解像度、システム設定できる。

ステップ

1. **Configuration→System→General**にアクセスしてください。
2. パラメータはお好みで設定してください。

ウィザード

デバイスの後にウィザードがポップアップ表示されます。

パスワード不要のログイン

パスワードなしでログインできます。

NTP時間同期

ネットワークタイムプロトコル（NTP）は、時刻同期のためのネットワークプロトコルです。デバイス（）はNTP（ネットワーク・タイム・プロトコル）サーバーに接続して時刻を同期することができます。

インターバル（分）

NTPサーバーとの2回の時刻同期間の時間間隔。

NTPサーバー

NTPサーバーのIPアドレス。

3. **Apply** をクリックする。

5.1.2 ユーザー

ユーザー追加

デフォルトのアカウントがあります：管理者。管理者ユーザー**admin**です。管理者はユーザーの追加、削除、編集の権限を持っています。ゲストユーザーは、ライブビュー、再生、ログ検索の権限のみを持っています。

ステップ

1. **Configuration→System→User**にアクセスしてください。
2. **Add**をクリックし、管理者パスワードを確認します。

3. ユーザー名を入力してください。
4. ユーザーレベルを選択します。
5. **Create Password**と**Confirm**に同じパスワードを入力する。

警告

製品のセキュリティを高めるため、ご自身で強力なパスワードを作成することを強くお勧めします。
8文字以上16文字。パスワードに次の文字を含めないこと：ユーザー名、123、admin、4桁以下の連続する増減する数字、4桁以下の連続する同一文字。
パスワードを定期的にリセットすることをお勧めします。特にセキュリティの高いシステムでは、毎月または毎週パスワードをリセットすることで、製品をより確実に保護することができます。

6. ユーザー権限を設定する。
7. **OK**をクリックする。
  /-をクリックして、ユーザーを編集/削除します。

パスワード再設定メールの設定

ログインパターンとパスワードを忘れた場合、デバイスはパスワードリセットのための認証コードを含む電子メールをあなたの電子メールに送信します。

ステップ

1. **Configuration**→**System**→**User**にアクセスしてください。
2. **パスワード再設定メール**をクリックします。
3. 認証のためにadminパスワードを入力する。
4. メールアドレスを入力してください。
5. **OK**をクリックする。

パスワードのリセット

ログインパターンとパスワードを忘れた場合は、パスワードをリセットすることができます。

ステップ

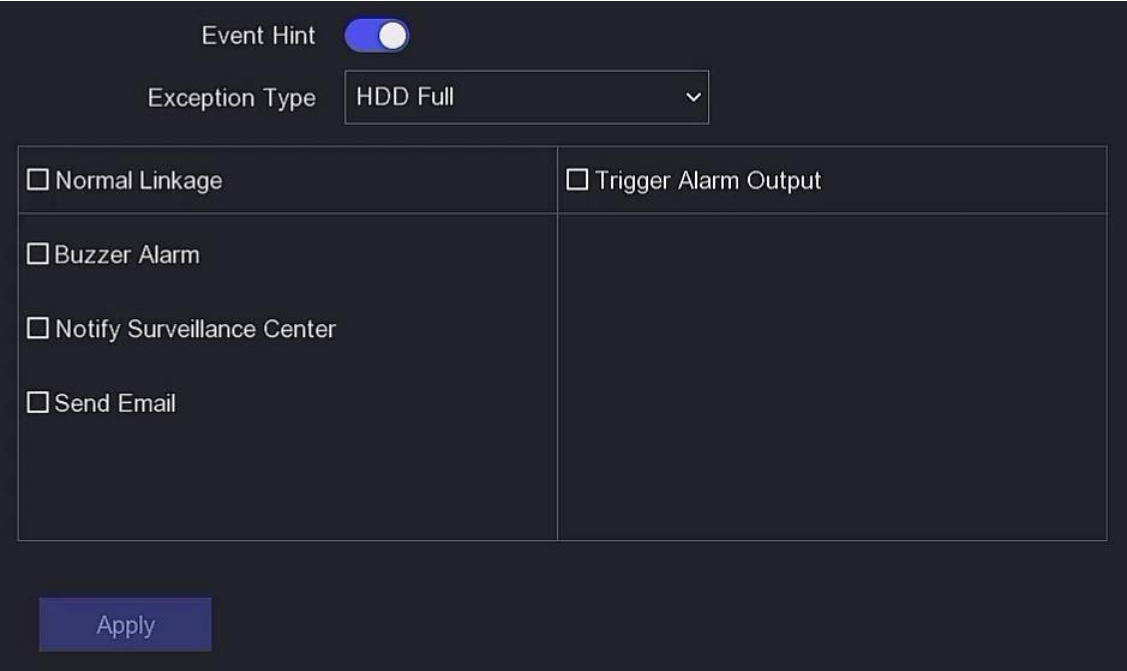
1. パスワードログインインターフェイスで「**パスワードを忘れた場合**」をクリックします。
2. プライバシーポリシーに同意いただける場合は、「**次へ**」をクリックしてください。
3. ウィザードに従ってパスワードをリセットしてください。

5.1.3 例外

アラームセンターで例外イベントのヒントを受信し、例外連携アクションを設定できます。

ステップ

1. **Configuration→System→Exception**にアクセスしてください。
2. オプション：イベントヒントを設定します。設定したイベントが発生すると、アラームセンターにヒントが表示されます。
 - 1) イベントヒントを有効にする。
 - 2) ローカルメニューの右ある  をクリックし、アラームセンターに入る。
 - 3) イベントの種類を選択してください。
 - 4) **Set** をクリックして、ヒントにするイベントを選択する。
3. **例外タイプ**の設定
4. 例外のリンケージ・アクションには、**通常のリンケージ・タイプ**を選択する。



Event Hint ☒	
Exception Type: HDD Full	
☐ Normal Linkage	☐ Trigger Alarm Output
☐ Buzzer Alarm	
☐ Notify Surveillance Center	
☐ Send Email	
Apply	

図5-1 例外

5. **Apply** をクリックする。

5.2 ネットワーク構成

5.2.1 一般

ネットワーク経由でデバイスを操作する前に、ネットワーク設定を適切に行う必要があります。

ステップ

1. Configuration→ Network→ General にアクセスする。

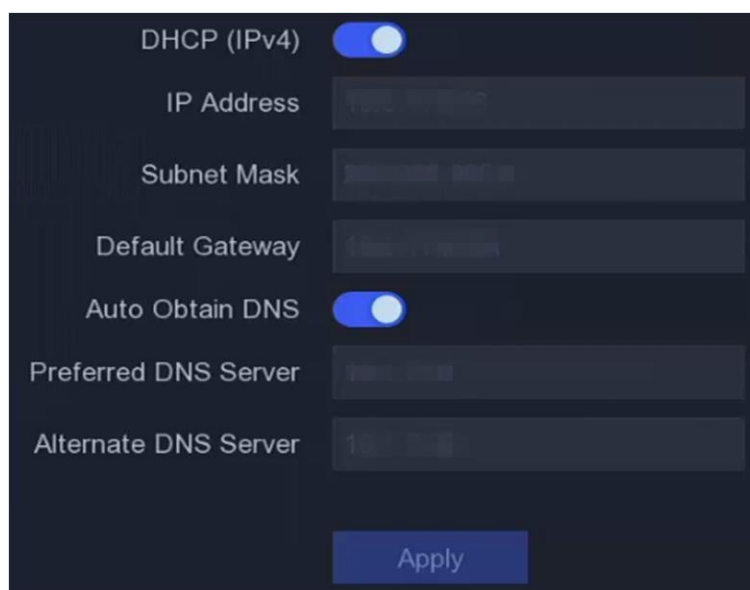


図5-2 ネットワーク

2. ネットワークパラメータを設定する。

ディーエイチシーピー

DHCPサーバーが利用可能な場合は、**DHCP**を有効にして、そのサーバーからIPアドレスやその他のネットワーク設定を自動的に取得することができます。

DNSの自動取得

DHCPが有効になっている場合。**DNSの自動取得**を有効にすると、**優先DNSサーバー**と**代替DNSサーバー**を自動的に取得できます。

3. **Apply** をクリックする。

5.2.2 ハイコネクト

Hik-Connectは、ビデオセキュリティシステムへの便利なリモートアクセスを取得することができ、接続されたデバイスにアクセスし、管理するための携帯電話アプリケーションとプラットフォームサービスを提供しています。

ステップ

1. Configuration→ Network→ Hik-Connectにアクセスしてください。

2. 有効にするをオンにします。サービス規約がポップアップ表示されます。
 - 1) サービス規約とプライバシーステートメントをお読みください。
 - 2) サービス規約とプライバシーステートメントに同意する場合は、「サービス規約とプライバシーステートメントを読み、同意する」をチェックしてください。
 - 3) OKをクリックする。
3.  をクリックして認証コードを設定する。
4. オプション：プラットフォーム時間同期を有効にすると、デバイスはNTPサーバーの代わりにプラットフォームサーバーと時間を同期します。
5. オプション：ストリーム暗号化を有効にします。この機能を有効にすると、リモートアクセスとライブビューで確認コードを入力する必要があります。
6. オプション：サーバーIPを編集します。
7. オプション：サブストリームの自己適応ビットレートを有効にする。ネットワーク環境が悪い場合、デバイスは自動的にビデオのビットレートを調整し、流暢な再生を保証します。
8. Hik-Connectデバイスをバインドします。
 - 1) スマートフォンでQRコードを読み取り、Hik-Connectアプリをダウンロードしてください。
<https://appstore.hikvision.com>、または下記のQRコードからもダウンロードできます。詳細は「Hik-Connectモバイルクライアント取扱説明書」をご参照ください。



図 5-3 Hik-Connect のダウンロード

- 2) Hik-Connectを使ってデバイスのQRをスキャンし、デバイスをバインドする。



- デバイスがすでにアカウントでバインドされている場合は、[Unbind]をクリックして現在のアカウントでの解除できます。
- また、左上の  QRコードを使用してHik-Connectをダウンロードし、デバイスをバインドすることもできます。

9. Apply をクリッ

クする。結果

- デバイスがHik-Connectプラットフォームと接続されている場合、接続ステータスはオンラインになります。
- デバイスがHik-Connectアカウントとバインドされている場合、バインドステータスは「はい」になります。

次に何をすべきか

Hik-Connect経由でビデオレコーダーにアクセスできます。

5.2.3 電子メール

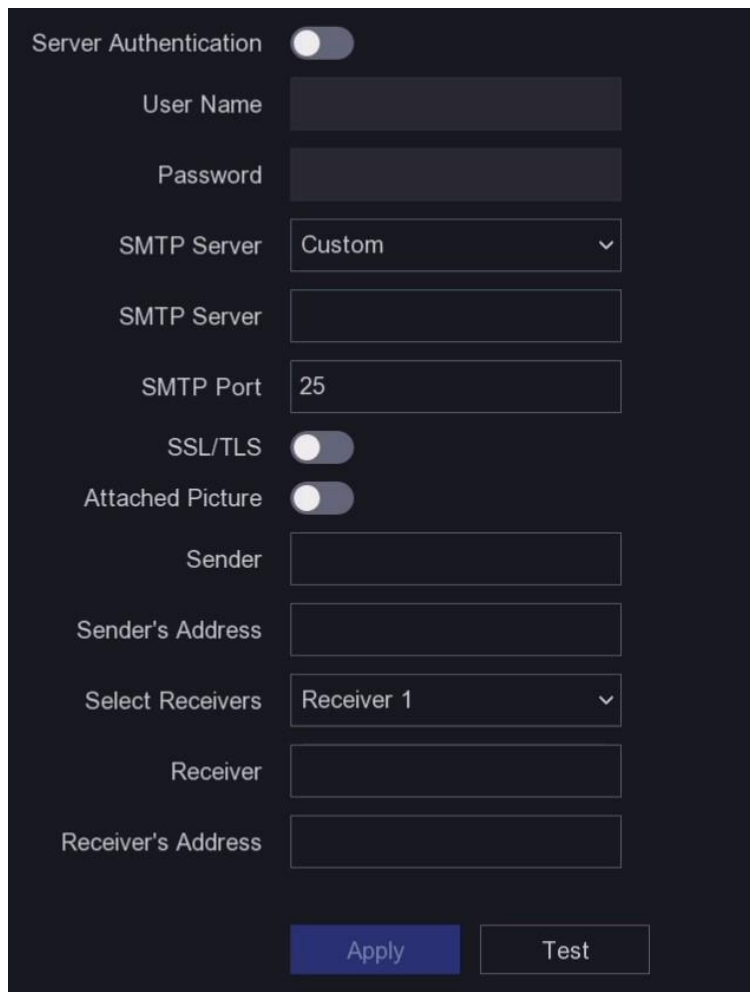
イベント通知を受け取る電子メールアカウントを設定します。

始める前に

- 電子メールのSMTPサービスが利用可能であることを確認してください。
- ネットワークパラメータを設定します。「一般」を参照してください。

ステップ

1. Configuration→ Network→ Email にアクセスする。



Server Authentication ☐

User Name

Password

SMTP Server Custom ▾

SMTP Server

SMTP Port 25

SSL/TLS ☐

Attached Picture ☐

Sender

Sender's Address

Select Receivers Receiver 1 ▾

Receiver

Receiver's Address

Apply Test

図5-4 電子メール

2. Eメールのパラメータを設定する

サーバー認証

サーバー認証有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

ユーザー名

SMTPサーバー認証のためのメール送信者のユーザーアカウント。

パスワード

SMTPサーバー認証のためのメール送信者のパスワード。

SMTPサーバー/SMTPポート

SMTP Severを選択した後、そのアドレスとポートが自動的に表示されます。必要に応じて編集することもできます。

SSL/TLS

(オプション) SMTPサーバーでSSL/TLSが必要な場合は有効にします。

添付写真

(オプション) イベントがトリガーされた場合、画像を電子メールの添付ファイルとして送信します。

送信者

送信者名。

送信者の住所

送信者のEメールアドレス。

レシーバーを選択

受信機を選択します。最大3台まで受信可能です。

レシーバー

レシーバー名。

受取人の住所

受信者のEメールアドレス。



注

ネットワークカメラの場合、イベント画像は電子メールの添付ファイルとして直接送信されます。1台のネットワークカメラは1枚の画像しか送信しません。

3. オプションテストメールを送信するには、**[テスト]**をクリックします。

4. **Apply** をクリックする。

5.3 カメラ

5.3.1 ネットワークカメラ

信号入力の設定

一部のデジタルビデオレコーダーモデルでは、アナログおよびIP信号入力設定できます。

ステップ

1. **Configuration→Camera→Analog→Analog**にアクセスしてください。
2. 各チャンネルの信号入力タイプを**HD/CVBS**または**IP**から選択します。

HD/CVBS

ターボHD、AHD、HDCVI、CVBSの4種類のアナログ信号入力をチャンネルごとにランダムに接続できる。

IP

チャンネルにネットワークカメラを接続できる。

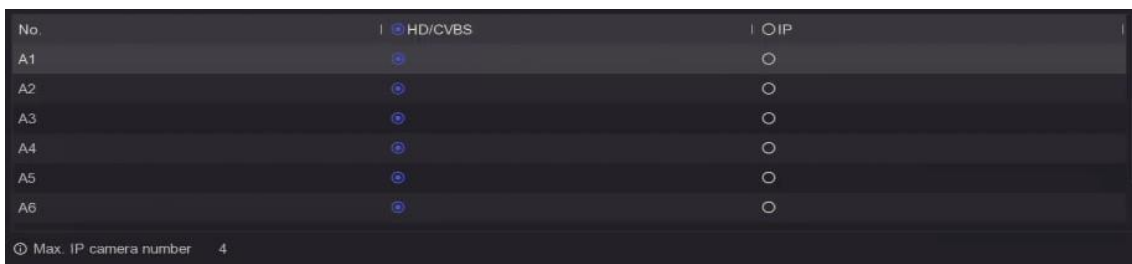


図 5-5 信号入力タイプ

3. **適用** をクリックします。アクセス可能なネットワークカメラの最大数は、**[Max.IP Camera Number]**で確認できます。

デバイスパスワードによるネットワークカメラの追加

パスワードがビデオレコーダーと同じネットワークカメラを追加します。

始める前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認する。「**一般**」を参照してください。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同じであることを確認してください。

ステップ

1. **設定**→**[カメラ]**→**[IP カメラ]**に進みます。ビデオレコーダーと同じネットワークセグメント上のオンラインカメラが**オンラインデバイスリスト**に表示されます。
2. ネットワーク選択します。
3. **+** をクリックしてカメラを追加します。



カメラが非アクティブの場合、デバイスの起動時に設定したパスワードでデバイスが自動的にカメラを起動します。

4. オプション：ネットワーク・カメラがDVRと同じネットワーク・セグメントになく、ONVIFプロトコルをサポートしている場合は、**[詳細検索]**をクリックし、カメラIPアドレスの最初の3オクテットを入力してカメラを追加します。

ネットワークカメラを手動で追加する

始める前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認して。
- ネットワークカメラが起動していることを確認します。

ステップ

1. **Configuration→ Camera→ IP Camera**にアクセスします。
 2. 追加されたデバイスリストの **+** をクリックします。
 3. IPアドレス、プロトコル、管理ポートなど、ネットワークカメラのパラメータを設定します。
 4. オプション：カメラ名をダブルクリックして名前を編集します。
-



カメラ名は、カメラのステータスがオンラインの場合のみ編集できます。

5. オプションネットワークカメラの追加にデバイスのパスワードを使用するには、**[カメラのアクティベーションパスワードを使用]**をオンにします。
6. オプション：別のネットワークカメラを追加するには、**さらに追加**をクリックします。
7. **追加**をクリックする。

図5-6 ネットワークカメラの追加

接続されたネットワークカメラの編集

追加したネットワークIPアドレス、プロトコル、その他のパラメータを編集できます。

ステップ

1. **Configuration**→ **Camera**→ **IP Camera**にアクセスします。
2.  をクリックして、選択したカメラを編集します。

チャンネル・ポート

接続デバイスが複数のチャンネルを持つエンコーディングデバイスの場合、チャンネルポート番号を選択して接続チャンネルを選択することができます。

3. **OK**をクリックする。

5.3.2 OSD設定

カメラのOSD（オンスクリーンディスプレイ）設定（日付フォーマット、カメラ名など）。

ステップ

1. **Configuration**→ **Camera**→ **OSD**にアクセスしてください。
2. カメラを選択します。

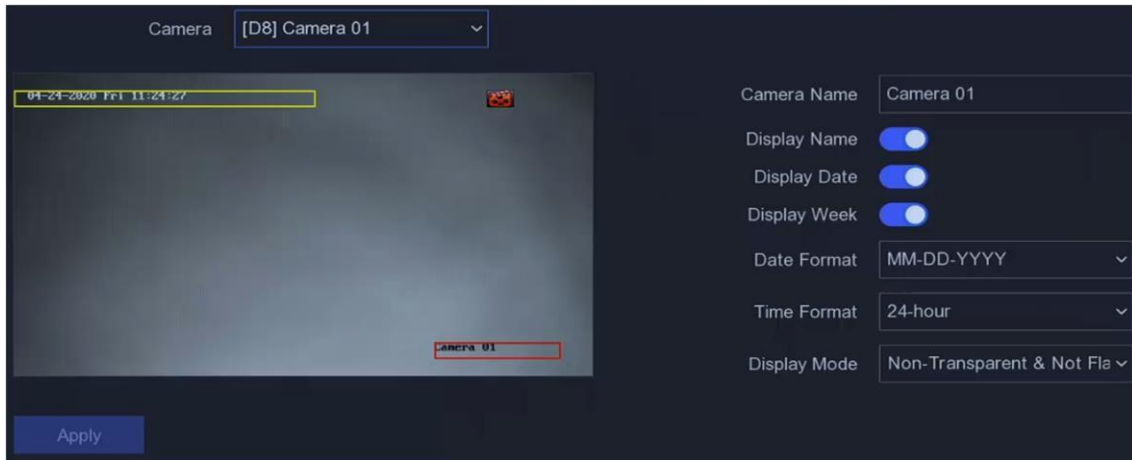


図5-7 OSD

3. パラメータはお好みで設定してください。
4. プレビューウィンドウのテキストフレームをドラッグして、OSDの位置を調整します。
5. **Apply** をクリックする。

5.3.3 モーション検出

動体検知機能により、ビデオレコーダーは監視エリア内の動く物体を検知し、アラームを作動させることができます。

ステップ

1. **設定**]→[**カメラ**→**モーション検出**]に進みます。
2. カメラを選択します。
3. **有効**をチェックする。
4. 動体検知エリアを設定します。
 - ー エリアを描画またはクリアするには、**Draw Area**または**Clear**をクリックします。最初の領域はデフォルトでフルスクリーンに設定されています。
 - ー **フルスクリーン**]をクリックすると、動体検知領域がフルスクリーンとして設定されます。プレビューウィンドウ上でドラッグして動体検知エリアを描画することができます。
5. **感度**を調整します。感度を調整することで、動きがアラームをトリガーしやすくなります。値が高いほど、動体検知をトリガーしやすくなります。
6. 分析モードを**AI**または**PIR**に設定します。

AI

動体検知イベントはデバイスによって分析されます。

PIR

動体検知イベントは特定のアナログPIRカメラによって分析される。

7. オプション：人間または車両によってトリガーされなかったアラームを破棄するには、**ターゲット検出**を**人間**または**車両**に設定します。
8. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、**「Configure Arming Schedule」**を参照してください。
9. 連動アクションを設定します。詳細は「**アラーム連動アクションの設定**」を参照してください。
10. **Apply** をクリックする。

5.4 アラーム連動アクションの設定

アラームまたは例外が発生すると、アラームリンクアクションが起動します。

ステップ

1. リンケージ・アクションをクリックする。
2. 通常連動動作、アラーム出力連動動作、トリガ設定します。

アラームポップアップウィンドウ

アラームがトリガーされると、ローカルモニターはアラームチャンネルの画像をポップアップ表示します。トリガーチャンネルでアラームチャンネルを選択する必要があります。

ブザーアラーム

アラームが作動するとブザーが鳴る。

監視センターに通知

アラームがトリガーされると、デバイスはリモートクライアントソフトウェアに例外またはアラーム信号を送信します。

メール送信

アラームがトリガーされると、アラーム情報が記載された電子メールが送信されます。

トリガー・チャンネル

選択したチャンネルが録画を開始する。設定→録画→スケジュールでチャンネルの録画スケジュールを設定する必要があります。

3. Apply をクリックする。

5.5 アラームスケジュールの設定

ステップ

1. アーミングスケジュールを選択します。
2. 曜日を1つ選び、時間区分を設定する。各曜日で最大8つの時間帯を設定できます。



注

時間帯は重複してはならない。

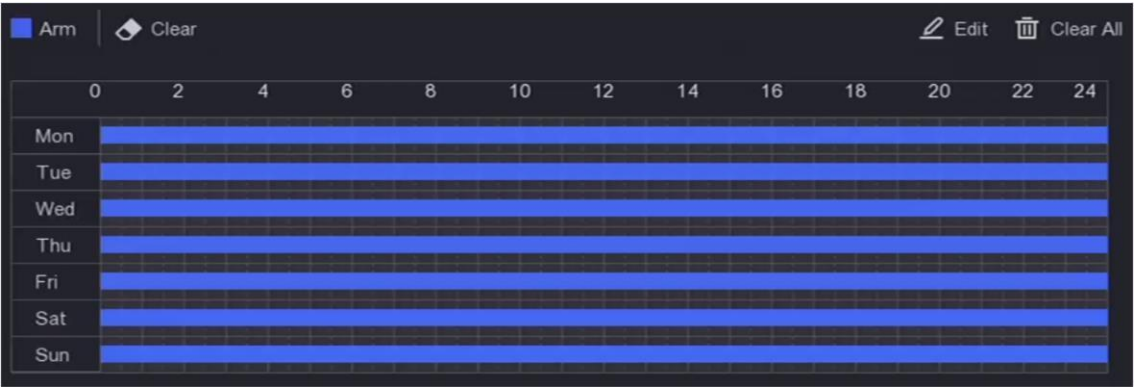


図 5-8 アラームスケジュールの設定

3. **Apply** をクリックする。

5.6 デバイスアクセス

5.6.1 スイッチ

スイッチの追加と管理

クイック・アド・スイッチ

ビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにスイッチをクイック追加。スイッチが起動していない場合は、カメラの起動パスワードで追加されます。

ステップ

1. **Configuration**→**Device Access**→**Switch**に進みます。
2. **Online Device List**（オンラインデバイスリスト）で、追加するスイッチにチェックを入れ、**Add（追加）**をクリックすると、ビデオレコーダーと同じネットワークセグメントに、チャンネルのデフォルトパスワードを使ってスイッチが追加されます。

手動でスイッチを追加

ステップ

1. **Configuration**→**Device Access**→**Switch**に進みます。
2. 追加されたデバイスリストで、**[Add]**をクリックし、デバイスのパラメータを設定します。

表 5-1 デバイス・パラメータの説明

パラメータ	説明
IPアドレス	スイッチのIPアドレス。
管理ポート	デフォルト設定のままにしてことをお勧めします。
ユーザー名/パスワード	スイッチのユーザー名/パスワード。

パラメータ	説明
カメラ起動パスワードの使用	ビデオレコーダーのカメラ起動パスワードを使用してスイッチを追加します。

3. **Add and Continue**をクリックし、すべてのデバイスが追加されるまで操作を繰り返します。
4. **追加**をクリックする。

5.6.2 非映像イベント（イージーモード）

ビデオ以外のイベントを設定する。

ステップ

1. **Configuration→Device Access→Non-Video Event**にアクセスする。
2. デバイスを選択します。
3. アラームの内容を選択します。
4. アーミングスケジュールを設定する。
5. リンケージ・アクションを設定する。

ブザーアラーム

アラームが作動するとブザーが鳴る。

監視センターに通知

アラームがトリガーされると、デバイスはリモートクライアントソフトウェアに例外またはアラーム信号を送信します。

メール送信

アラームがトリガーされると、アラーム情報が記載された電子メールが送信されます。

6. **Apply** をクリックする。

5.6.3 IPスピーカー

IPスピーカーの追加と管理IPスピーカをカメラにリンクすることで、音声アラーム連動や双方向音声を実現できます。

IPスピーカーのクイック追加

ビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにIPスピーカーをすばやく追加します。IPスピーカーが起動されていない場合は、カメラの起動パスワードで追加されます。

ステップ

1. **Configuration→Device Access→IP Speaker**にアクセスしてください。
2. **オンラインデバイスリスト**で、追加するIPスピーカをチェックし、**[追加]**をクリックして、カメラの起動パスワードを使用してビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにIPスピーカを追加します。



IPスピーカーは最大4台まで追加可能。

IPスピーカーを手動で追加

ステップ

1. **Configuration**→**Device Access**→ **IP Speaker**にアクセスしてください。
2. 追加されたデバイスリストで、**[Add]**をクリックし、デバイスのパラメータを設定します。

表 5-2 デバイス・パラメータの説明

パラメータ	説明
IPアドレス	IPスピーカーのIPアドレス。
管理ポート	デフォルト設定のままにしておくことをお勧めします。
ユーザー名 / パスワード	IPスピーカーのユーザー名/パスワード。
カメラ起動パスワードの使用	ビデオレコーダーのカメラ起動パスワードを使用して、IPスピーカーを追加します。

3. **Add and Continue**をクリックし、すべてのデバイスが追加されるまで操作を繰り返します。



IPスピーカーは最大4台まで追加可能。

4. **追加**をクリックする。

IPスピーカーをチャンネルにリンク

IPスピーカーはカメラと連動し、サウンドアラーム連動や双方向音声を実現する。

ステップ

1. **Configuration**→**Device Access**→ **IP Speaker**にアクセスしてください。
2. 追加されたデバイスリストでデバイスを選択し、をクリックします。
3. リンクするチャンネルを選択します。
4. **OK**をクリックする。

バッチ時間同期

IPスピーカーの一括時刻同期に対応。

ステップ

1. **Configuration**→**Device Access**→ **IP Speaker**にアクセスしてください。

2. 追加されたデバイスリストで、[パッチ時間同期] をクリックします。
3. 時間同期を有効にするをオンにします。
4. 時間同期間隔の設定。
5. OKをクリックする。

オーディオパラメーターの設定

ステップ

1. Configuration→ Device Access→ IP Speakerにアクセスしてください。
2. Audio Parameter をクリックします。
3. IPスピーカーの音量を設定します。

メディアライブラリー

外部ストレージからメディアライブラリーへのオーディオのインポートをサポート。

ステップ

1. Configuration→ Device Access→ IP Speakerにアクセスしてください。
2. 追加されたデバイスリストで、メディアライブラリーをクリックします。
3. 音声をインポートIPスピーカーを選択します。
左側のリストでIPスピーカーを選択し、Importをクリックします。Batch Import Audioをクリックし、IPスピーカーを選択し、OKをクリックします。
4. デバイス名、パス、オーディオファイルを選択します。
5. インポートをクリックする。



1MB以内のMP3またはWAVファイルであること。

5.7 PoE設定

PoE電源とPoEバインディングを設定します。

5.7.1 PoE電源の設定

ステップ

1. Configuration→ PoE Settings→ PoE Power Configurationにアクセスする。
2. Long Distance (長距離) またはShort Distance (短距離) を選択し、ロングネットワークケーブルモードを有効または無効にします。長距離

PoEインターフェースによる長距離 (100～300m) ネットワーク伝送。

近距離

PoEインターフェースによる近距離（100m未満）ネットワーク伝送。



- PoEポートはデフォルトで短距離モードで有効になっている。
- 長いネットワークケーブル（100～300m）でPoE接続されたIP帯域幅は6Mbpsを超えることはできません。
- IPカメラのモデルやケーブルの材質によっては、許容されるネットワークケーブルの最大長が300m未満になる場合があります。
- 伝送距離が100～250メートルの場合は、PoEインターフェースとの接続にCAT5eまたはCAT6ネットワークケーブルを使用する必要があります。
- 伝送距離が250～300mに達した場合、PoEインターフェースとの接続にはCAT6ネットワークケーブルを使用する必要があります。

3. Apply をクリックする。

4. PoEカメラをお使いのデバイスのPoEインターフェースにネットワークケーブルで接続します。

5.7.2 PoEバインディングの設定

ステップ

1. Configuration→ PoE Settings→ PoE Binding Configuration にアクセスする。
2. PoEチャネルを有効または無効にするには、チェックボックスをオンまたはオフにします。



PoEチャネルを無効にして、通常のIPチャネルのリソースを増やすことができます。

3. アクセスデバイスのタイプをPoE1からPoE4に設定します。

4. Apply をクリックする。

5.8 記録管理

5.8.1 記憶装置

HDDの初期化

新しく設置したハードディスクドライブ（HDD）は、ビデオや情報の保存に使用する前に初期化する必要があります。

始める前に

ビデオレコーダーに少なくともHDDを取り付けてください。詳細な手順については、クイックスタートガイドを参照してください。

ステップ

1. **Configuration→Record→Storage** に進む。
2. HDDを選択します。
3. **Init**をクリックする。

データベースの修復

データベースにエラーがあるHDDを修復します。プロのテクニカルサポートの助けを借りて操作してください。

ネットワークディスクの追加

割り当てられたNASまたはIP SANディスクをビデオレコーダーに追加し、ネットワークHDDとして使用することができます。

ステップ

1. **Configuration→Record→Storage** に進む。
2. **追加**をクリックする。
3. **NetHDD**を選択します。
4. タイプを**NAS**または**IP SAN**に設定する。
5. **NetHDD IP**アドレスを入力します。
6.  をクリックして利用可能なディスクを検索する。

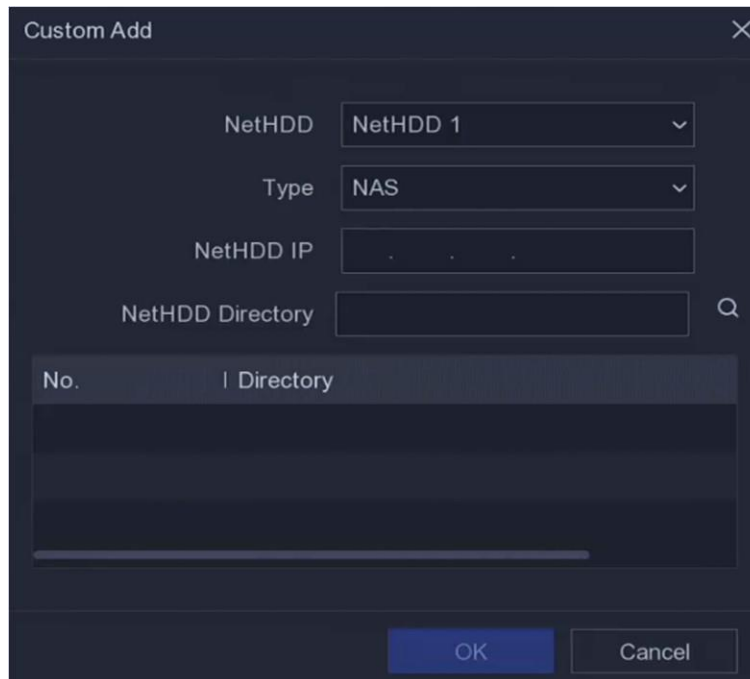


図 5-9 NetHDD の追加

7. リストから**NAS**ディスクを選択するか、**NetHDDディレクトリ**に手動でディレクトリを入力します。
8. **OK**をクリックします。ストレージデバイス一覧に追加したNetHDDが表示されます。

5.8.2 録画スケジュールの設定

ビデオレコーダーは、設定されたスケジュールに従って自動的に録画を開始/停止します。

連続録画の設定

ステップ

1. **Configuration→Record→Parameter** に進む。
2. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム記録パラメータを設定します。参照
詳しくは[録画パラメーターを設定する。](#)
3. **Configuration→Record→Schedule** に進む。
4. 録画タイプを「**連続**」にする。詳しくは[Edit Schedule](#)を参照してください。

イベント記録の設定

動体検知をトリガーとした録画を設定できます。

ステップ

1. **Configuration→Camera→Motion**にアクセスしてください。
2. イベント検出を設定し、イベント発生時に録画をトリガーするチャンネルを選択します。
3. **Configuration→Record→Parameter** に進む。
4. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。参照
詳しくは[録画パラメーターを設定する。](#)
5. **Configuration→Record→Schedule** に進む。
6. 録画タイプを**イベント**にする。「[スケジュールの編集](#)」を参照してください。

編集スケジュール

ステップ

1. **Configuration→Record→Schedule** に進む。

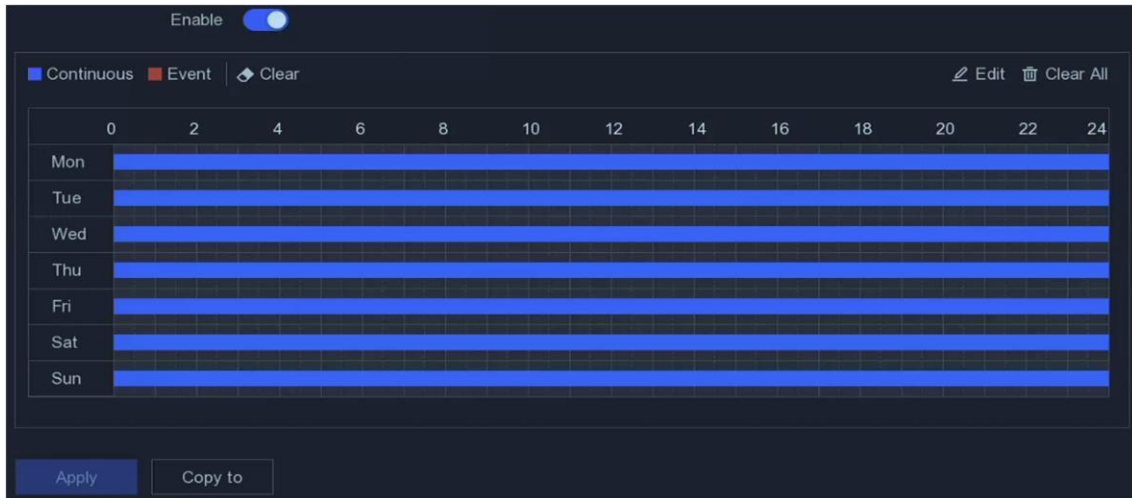


図 5-10 録画スケジュール

連続

連続録画。

イベント

録画はイベントによってトリガーされる。

2. カメラ番号でカメラを選択します。
3. Enableをオンにする。
4. 録画スケジュールを設定する。

スケジュールの編集

1. 編集をクリックする。
2. Weekdayで設定する日を選択します。
3. 終日録画スケジュールを設定するには、「終日」をチェックし、スケジュールの種類を選択します。
4. 他のスケジュールを設定するには、「終日」のチェックを外し、開始/終了時刻を設定します。とスケジュールタイプ。



1日に最大8つの期間を設定できる。また、期間同士を重複させることはできません。

5. OKをクリックして設定を保存し、上位メニューに戻る。

スケジュールの作成

1. クリックして、スケジュールの種類を連続かイベントかを選択します。
2. テーブル上で、マウスを目的の期間上にドラッグして、色のついたバーを描く。

5. Apply をクリックする。

5.8.3 録画パラメーターの設定

ステップ

1. **Configuration**→**Record**→**Parameter**に進む。
2. 録画パラメーターを設定する。

メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されるデータに影響を与える主要なストリームのことで、ビデオの画質と画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較すると、メインストリームはより高い解像度とフレームレートでより高品質なビデオを提供します。

サブストリーム

サブストリームは、メインストリームと並行して動作する第2のコーデックです。これにより、直接録画の品質を犠牲にすることなく、送信インターネット帯域幅を削減することができます。サブストリームは、ライブビデオを表示するためのスマートフォンアプリケーションでのみ使用されることがよくあります。インターネット速度が制限されているユーザーは、この設定から最も恩恵を受けることができます。

決議

画像の解像度は、デジタル画像がどれだけ詳細な情報を保持できるかを示す尺度であり、解像度が高いほど詳細な情報が得られる。解像度は、ピクセルの列数（幅）×ピクセルの行数（高さ指定できます（例：1024×768））。

フレームレート

フレームレートとは、1秒間に何枚のフレームがキャプチャされるかを示す。ビデオストリームに動きがある場合、フレームレートが高い方が画質が維持されるため有利である。

最大ビットレート

最大ビットレートを設定する。ビットレート（Kbit/sまたはMbit/s）はしばしば速度と呼ばれるが、実際には距離/時間単位ではなく、ビット数/時間単位を定義する。

エンコード・タイプ

ビデオエンコーディングタイプを設定します。

H.265+を有効にする

H.265+を有効または無効にする。



より高い解像度、フレームレート、ビットレートは、より良いビデオ品質を提供しますが、より多くのインターネット帯域幅を必要とし、ハードディスクドライブのより多くのストレージスペースを使用します。

3. **Apply** をクリックする。

第6章 コンフィギュレーション (エキスパートモード)

「コンフィギュレーション」に進み、左下にある「エキスパートモード」をクリックする。

6.1 システム構成

6.1.1 一般

基本設定の構成

ビデオ画質モード、出力解像度、マウスポインタ速度、設定できます。**設定**→ **システム**→ **一般**→ **基本設定**に進み、希望するパラメータを設定し、**適用**をクリックします。

VGA/HDMI解像度

出力解像度はVGA/HDMIディスプレイの解像度と同じでなければなりません。

ビデオ品質モード

デフォルトのモードはスタンダード。

マウスポインタの速度

マウスポインタの速度を設定します。4段階設定可能。

パスワード不要のログイン

パスワードなしでログインできます。

ウィザード

デバイスの後にウィザードがポップアップ表示されます。

地域と時間の設定

地域、言語、タイム設定できます。

ステップ

1. **Configuration**→ **System**→ **General**→ **Region & Time Settings**にアクセスします。
2. **地域**を選択する。



地域を変更すると、言語、タイムゾーン、システム日付、システム時刻、サマータイム設定が地域に同期して変更されます。

3. オプション：日付形式を選択します。

4. **Apply** をクリックする。

その他の設定

デバイス名、ロック画面の時間、出力モードなどを設定できます。

Configuration→System→General→More Settingsにアクセスし、希望するパラメータを設定し、**Apply**をクリックする。

デバイス名

ビデオレコーダー名を編集します。

デバイス番号

リモコンやネットワークキーボード等との接続に必要な番号です。ビデオレコーダーのシリアル番号を編集します。デバイス番号は 1～255 で、初期値は 255 です。

ロック画面

ロック画面のタイムアウト時間を設定します。

メニュー出力モード

ローカルメニューを表示するために出力を選択する。

CVBS出力輝度

CVBS 出力の輝度を設定します。

出力基準

NTSCまたはPALに設定し、ビデオ入力規格と同じにする。

1080Pライトモード

1080P Liteモードが有効な場合、**1080P Lite**（リアルタイム）でのエンコード解像度がサポートされます。そうでない場合は、**1080P**（非リアルタイム）までサポートされます。

6.1.2 ライブビュー

一般パラメータの設定

出力インターフェースの設定、音声のミュートやオン、イベント出力設定できます。

ステップ

1. **Configuration→System→Live View→General**にアクセスしてください。

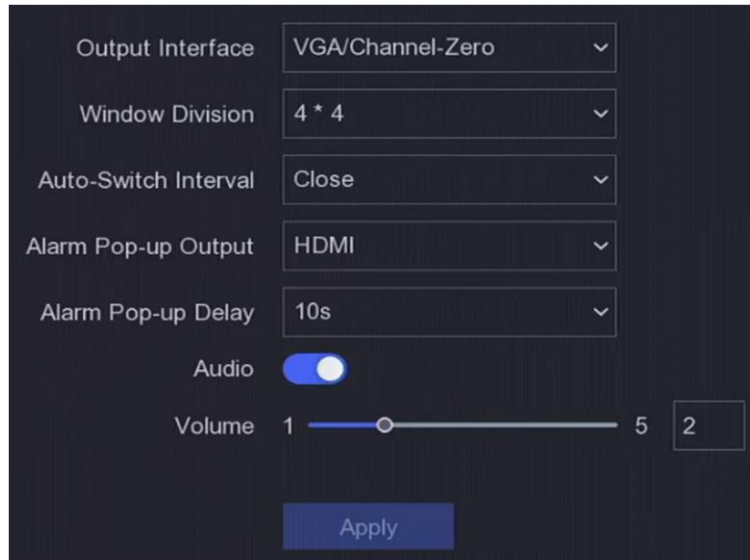


図 6-1 ライブビュー-全般

2. ライブビューのパラメータを設定する。

窓部門

ライブビューのウィンドウ分割を選択します。

自動切り替え間隔

ライブビューでの自動切り替えが有効な場合に、次のカメラに切り替わるまでの滞留時間。

アラームポップアップ出力

アラーム映像を表示する出力を選択します。

アラームポップアップ遅延

アラームイベント画像を表示する時間を設定します。

オーディオ

選択したビデオ出力のオーディオ出力をオン/オフします。

ボリューム

選択したビデオ出力インターフェースのライブビュー、再生、双方向オーディオボリュームを調整します。

3. Apply をクリックする。

ライブビューのレイアウトを設定する

ステップ

1. Configuration→System→Live View→View に行く。
2. 出力インターフェースを設定する。
3. ウィンドウを選択し表示したいリストのカメラをダブルクリックします。+ ウィンドウにカメラが表示されていないことを意味します。

4. オプション：  または  をクリックして、すべてのライブ表示を開始または停止します。
5. **Apply** をクリックする。

チャンネル・ゼロ・エンコーディングの設定

ウェブブラウザやCMS（クライアント管理システム）ソフトウェアから多数のリアルタイムでリモート表示する必要がある場合、画質に影響を与えることなく帯域幅の要件を減らすために、チャンネルゼロエンコーディングを有効にします。

ステップ

1. **Configuration→System→Live View→General**にアクセスしてください。
2. ビデオ出力インターフェースを**チャンネルゼロ**に設定する。
3. **Configuration→System→Live View→Channel-Zero**に行く。

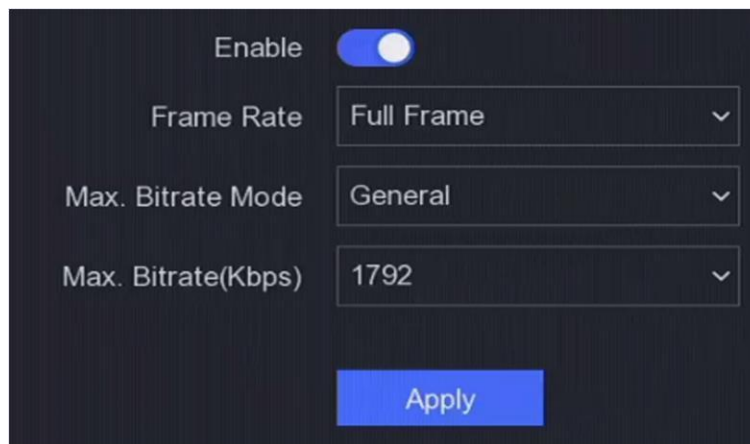


図6-2 チャンネル・ゼロ

4. **Enable**をオンにする。
5. フレームレート、**Max.**ビットレートモードと**Max.**ビットレート。フレームレートとビットレートが高いほど、必要な帯域幅が大きくなります。
6. **Apply** をクリックする。

6.1.3 ユーザー

詳細は「[ユーザー](#)」を参照。

6.2 ネットワーク構成

6.2.1 ティーシーピー・アイピー

ネットワーク経由でビデオレコーダーを操作する前に、TCP/IPを適切に設定する必要があります。

ステップ

1. Configuration→Network→General→TCP/IPに進みます。
2. ネットワークパラメータを設定する。

作業モード

マルチアドレス・モード

2枚のNICカードのパラメータは独立して設定することができます。パラメータ設定のNICタイプフィールドでLAN1またはLAN2を選択できます。片方のNICカードをデフォルトルートとして選択できます。そして、システムはエクストラネットと接続し、データはデフォルトルートを通して転送されます。

ネットフォールト・トレランス・モード

2枚のNICカードは同じIPアドレスを使用し、メインNICをLAN1またはLAN2に選択することができます。これにより、一方のNICカードが故障した場合、ビデオレコーダーは自動的にもう一方のスタンバイNICカードを有効にし、システム全体の正常な動作を保証します。

ロードバランスモード

同じIPアドレスを使用し、2枚のNICカードが総帯域幅の負荷を共有することで、システムは2ギガビットのネットワーク容量を提供することができます。



作業モードは特定のモデルでのみ利用可能です。

NICタイプ

お好みのNICタイプを選択してください。お使いのデバイスがWi-Fi Dongle機能をサポートしている場合、適切なWi-Fi Dongleがインストールされた後、Wi-Fi DongleのNICが選択可能になります。

ディーエイチシーピー

DHCPサーバーが利用可能な場合は、**Enable DHCP**にチェックを入れると、IPアドレスやその他のネットワーク設定をサーバーから自動的にできます。

エムティーユー

最大伝送単位 (MTU) とは、1つのネットワークトランザクションで通信できる最大のネットワーク層プロトコルのデータ単位のサイズである。

デフォルトルート

お好みのルートを選択してください。Wi-Fi Dongleに対応して機種であれば、Wi-Fi Dongleを装着することでルートが選択できるようになります。

DNSの自動取得

DHCPがチェックされている場合。**Obtain DNS Automatically**にチェックを入れると、**Preferred DNS Server**と**Alternate DNS Server**を取得できます。

3. **Apply** をクリックする。

6.2.2 ディーディーエヌエス

ダイナミックドメインネームサーバー（DDNS）は、ダイナミックユーザーIPアドレスを固定ドメインネームサーバーにマッピングする。

始める前に

DynDNS、PeanutHull、NO-IPサービスをISPに登録します。

ステップ

1. **Configuration**→**Network**→**General**→**DDNS**に移動します。

The screenshot shows a web interface for DDNS configuration. At the top, there is an 'Enable' toggle switch which is currently turned on. Below it, 'DDNS Type' is a dropdown menu showing 'DynDNS'. There are four text input fields: 'Server Address', 'Device Domain Name', 'User Name', and 'Password'. Below these fields, the 'Status' is displayed as 'DDNS is disabled.' and there is a blue 'Apply' button at the bottom right.

図6-3 DDNS

2. **Enable**をオンにする。

3. DDNSタイプを選択します。

4. サービスアドレス、ドメインパラメータを入力します。

5. **Apply** をクリック

します。次にするこ

と

ステータスでDDNSステータスを見ることができます。

6.2.3 PPPoE

PPPoEが有効化されると、デバイスは自動的にダイナミックIPアドレスを取得します。

インターネットにアクセスできます。

ステップ

1. **Configuration→Network→General→PPPOE** にアクセスする。
2. **有効**をチェックする。
3. PPPoEユーザー名とパスワードを入力します。
4. **Apply** をクリックする。



機能を有効にすると、DHCPは無効になります。

6.2.4 ナット

クロスセグメントネットワーク経由のリモートアクセスを実現するためのポートマッピングには、UPnP™と手動マッピングの2つの方法が用意されています。

始める前に

UPnP™が必要な場合は、ルーターのUPnP™機能を有効にします。デバイスネットワークの動作モードがマルチアドレスの場合、デフォルトのデバイスルートは、ルータのLAN IPアドレスと同じネットワークセグメント上にある必要があります。

ステップ

1. **Configuration→Network→General→NAT** にアクセスする。

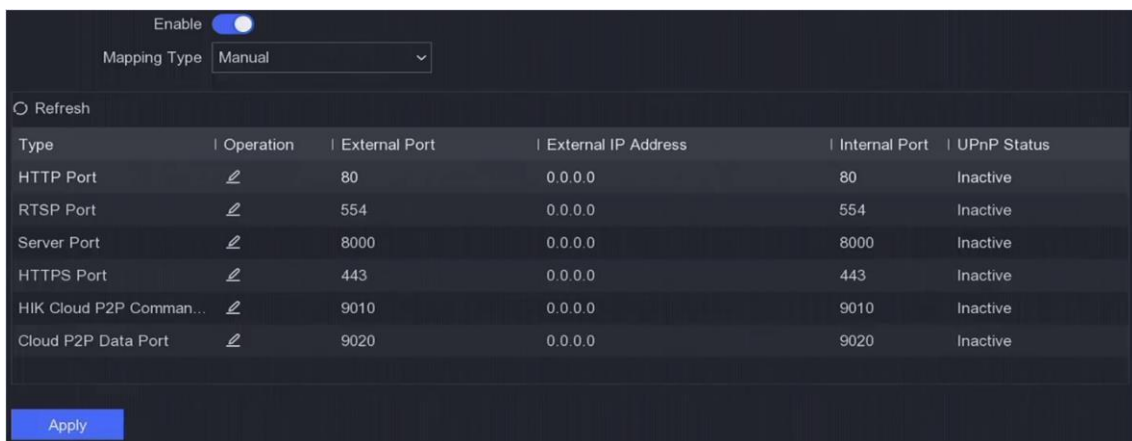


図6-4 NAT

2. **Enable**をオンにする。
3. **マッピング・タイプ**を手動または自動で選択する

自動

ポートマッピングの項目は読み取り専用で、外部ポートはルーターによって自動的に設定されます。ポートマッピングの最新のステータスを取得するには、**[更新]**をクリックできます。

マニュアル

外部ポートのタイプを選択します。 をクリックして**外部ポート**を編集します。以下のことができます。

デフォルトの外部ポート番号を使用するか、実際の要件に応じて変更します。**外部**ポートは、ルーターのポートマッピング用のポート番号を示します。

RTSPポート番号の値は554または1024から65535の間で、他のポートの値は1から65535の間で、それぞれ異なる値でなければなりません。複数のデバイスが同じルーターの下でUPnP™設定されている場合、各デバイスのポート番号の値は一意でなければなりません。

4. 内部ソースポート、外部ソース、ルーターの仮想サーバーを設定します。仮想サーバーのパラメーターは、お使いのデバイスのポートに対応している必要があります。

6.2.5 エヌティーピー

お使いのデバイスは、ネットワークタイムプロトコル（NTP）サーバーに接続し、システムの時刻が正確であることを保証することができます。

ステップ

1. **Configuration**→**Network**→**General**→**NTP** にアクセスする。
2. **Enable**をオンにする。
3. パラメータを入力する。

インターバル

NTPサーバーとの2回の時刻同期間の時間間隔。

NTPサーバー

NTPサーバーのIPアドレス。

4. **Apply** をクリックする。

6.2.6 サーバーへのログのアップロード

システムログをサーバーにアップロードしてバックアップすることができます。

ステップ

1. **Configuration**→**Network**→**General**→**Log Server Settings**に移動します。

図 6-5 ログ・サーバーの設定

2. 有効にする
3. アップロードの時間間隔、サーバーのIPアドレス、ポートを設定します。
4. オプション： **Test** をクリックして、パラメータが有効かどうかをテストする。
5. **Apply** をクリックする。

6.2.7 ポート（その他の設定）

異なるポートタイプを設定し、希望する関連機能を有効にする。 **Configuration** → **Network** → **General** → **More Settings** にアクセスしてください。

アラームホストIP/ポート

アラームがトリガーされると、デバイスはアラームイベントまたは例外メッセージをアラームホストに送信します。リモートアラームホストには、クライアント管理システム（CMS）ソフトウェアがインストールされている必要があります。
アラームホスト IP は、CMS ソフトウェア（iVMS-4200 など）がインストールされているリモート PC の IP アドレスを指し、アラームホストポート（デフォルトでは 7200）は、ソフトウェアで設定されているアラームモニタリングポートと同じでなければなりません。

サーバーポート

リモートクライアントソフトウェアアクセス用。2000から65535の範囲。デフォルト値は8000。

HTTPポート

リモート・ウェブ・ブラウザ・アクセスの場合。デフォルト値は80。

マルチキャストIP

マルチキャストは、ネットワーク経由で許可される最大数を超えるカメラのライブ表示を有効にするために設定できます。マルチキャストIPアドレスは224.0.0.0～239.255.255.255のClass-D IPをカバーし、239.252.0.0～239.255.255.255のIPアドレスを使用することを推奨します。
 CMSソフトウェアにデバイスを追加する場合、マルチキャストアドレスはデバイスのものと同じでなければなりません。

RTSPポート

RTSP（Real Time Streaming Protocol）は、次のような用途に設計されたネットワーク制御プロトコルです。

ストリーミング・メディア・サーバーを制御するための、エンターテインメントおよび通信システム。ポート番号はデフォルトで554。

出力帯域幅制限

チェックボックスをオンにすると、出力帯域幅の制限が有効になります。

出力帯域幅

出力帯域制限を有効にした後、出力帯域幅を入力する。



- 出力帯域幅の制限は、リモートライブビューと再生に使用されます。
- デフォルトの出力帯域幅が上限である。

Alarm Host IP	
Alarm Host Port	0
Server Port	8000
HTTP Port	80
Multicast IP	
RTSP Port	554
Apply	

図 6-6 ポート設定

6.2.8 ハイコネクト

Configuration→Network→Platform Access にアクセスしてください。詳細は[Hik-Connect](#)を参照してください。

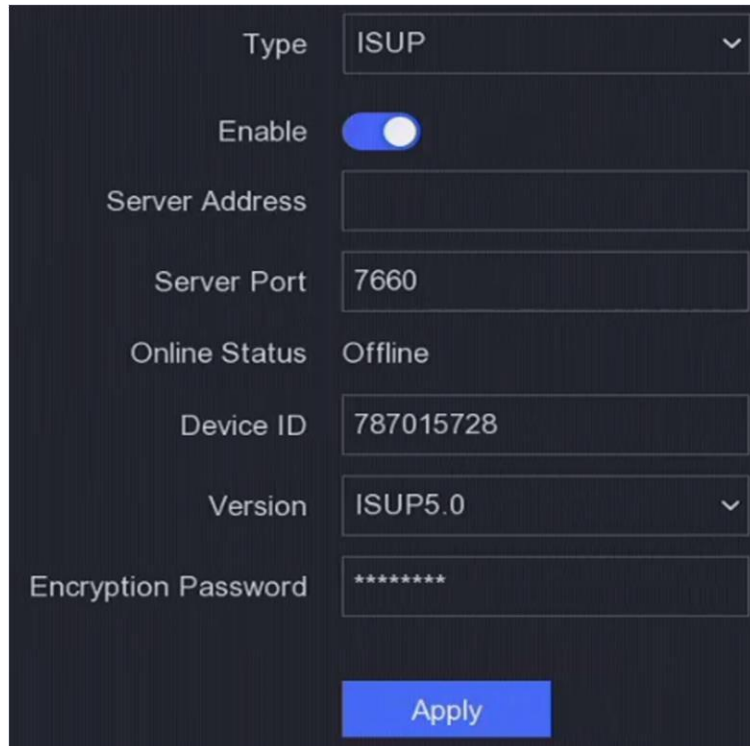
6.2.9 アイエスユーピー

SDKはIntelligent Security Uplink Protocol (ISUP) に基づいています。サードパーティ・プラットフォームがNVR、スピード・ドーム、DVR、ネットワーク・カメラ、モバイルNVR、モバイル・デバイス、デコーディング・デバイスなどのデバイスにアクセスするためのAPI、ライブラリ・ファイル、コマンドを提供します。このプロトコルでは

サードパーティプラットフォームは、ライブビュー、再生、双方向オーディオ、PTZ制御などの機能を実現できる。

ステップ

1. Configuration→Network→Platform Accessにアクセスしてください。
2. タイプをISUPとする。



The screenshot shows a configuration window for Platform Access. The 'Type' is set to 'ISUP'. The 'Enable' toggle is turned on. The 'Server Address' field is empty. The 'Server Port' is set to '7660'. The 'Online Status' is 'Offline'. The 'Device ID' is '787015728'. The 'Version' is 'ISUP5.0'. The 'Encryption Password' is masked with asterisks. An 'Apply' button is at the bottom.

図6-7 ISUP

3. Enableをオンにする。



ISUPを有効にすると、他のプラットフォームへの無効になる。

4. 関連するパラメータを設定する。

サーバーアドレス

プラットフォームサーバーのIPアドレス。

サーバーポート

プラットフォーム・サーバー・ポートは、1024から65535の範囲である。実際のポートはプラットフォームが提供する。

デバイスID

デバイスIDはプラットフォームが提供するものとする。

バージョン

ISUPプロトコルのバージョンはV5。

暗号化パスワード

暗号化パスワードは ISUP V5.0 バージョンを使用する場合に必要で、デバイスとプラットフォーム間のより安全な通信を提供します。デバイスが ISUP プラットフォームに登録された後、確認のために入力します。

5. **Apply** をクリックして設定を保存し、デバイスを再起動します。

次に何をすべきか

デバイスの再起動後にオンライン状態（オンラインまたはオフライン）を確認できます。

6.2.10 OTAPサービス

ステップ

1. **Configuration**→**Network**→**Platform Access**にアクセスしてください。
2. **タイプ**を **OTAP サービス**に設定する。
3. **Enable**をオンにする。



OTAPサービスを有効にすると、他のプラットフォームへの無効になります。

4. 関連するパラメータを設定する。

サーバーアドレス

プラットフォームサーバーのIPアドレス。

ポート

プラットフォーム・サーバー・ポートの範囲は1～65535である。デフォルト値は7800である。実際のポートはプラットフォームが提供する。

デバイスID

デバイスIDはデバイスから提供されなければならない。

キー

このキーは、サーバーが登録情報を受信した際の確認に使用される。キーには6～12文字が使用できます。デフォルトのキーは abc12345 です。

5. **Apply** をクリックして設定を保存し、デバイスを再起動します。

次に何をすべきか

デバイスの再起動後に登録状況（オンラインまたはオフライン）を確認できます。

6.2.11 電子メール

Configuration→**Network**→**Email**にアクセスしてください。詳細は「**Eメール**」を参照。

6.3 カメラ管理

6.3.1 信号入力の設定

一部のデジタルビデオレコーダーモデルでは、アナログおよびIP信号入力設定できます。

ステップ

1. **Configuration**→ **Analog**→ **Analog**にアクセスするか、**Configuration**の右上隅にある**Edit**をクリックする。
→**カメラ**→**カメラ**。
2. 信号入力タイプを**HD/CVBS**または**IP**から選択します。

HD/CVBS

ターボHD、AHD、HDCVI、CVBSの4種類のアナログ信号入力が可能。
チャンネルはランダムに接続される。

IP

チャンネルにネットワークカメラを接続できる。

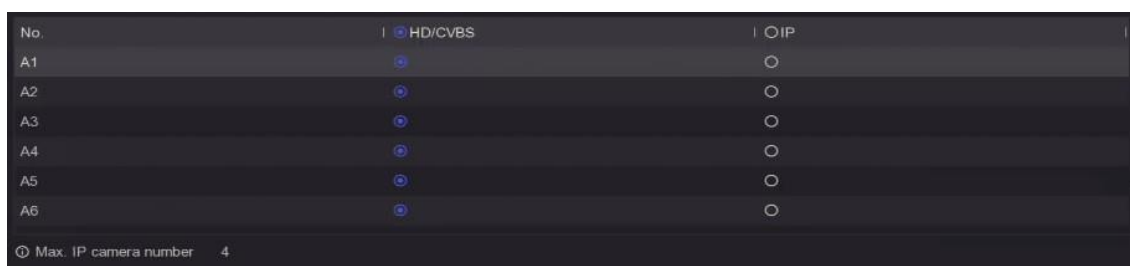


図 6-8 信号入力タイプ

3. **適用**] をクリックします。アクセス可能なネットワークカメラの最大数は、**Max.IP Camera Number**で確認できます。

6.3.2 ネットワークカメラ

自動検索されたオンライン・ネットワーク・カメラの追加

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加します。

始める前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認して。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同じであることを確認してください。

ステップ

1. **Configuration**→ **Camera**→ **Camera**にアクセスしてください。

2. **オンライン・デバイス・リスト**]をクリックします。同じネットワークセグメント上のオンラインカメラがリストに表示されます。
3. オプション：カメラのIPアドレスを一括で編集するには、**[IPの編集]**をクリックします。システムは選択したカメラに順番にIP割り当てます。



選択したカメラが起動していることを確認します。

4. ネットワークカメラを選択し、**Add**をクリックしてします。

ネットワークカメラを手動で追加する

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加します。

始める前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認して。
- ネットワークカメラが起動していることを確認します。

ステップ

1. **Configuration**→**Camera**→**Camera**にアクセスしてください。
2. **+**をクリックする。

Add IP Camera (Custom)

Refresh

No.	IP Address	Status	Protocol	Management P...	Device
1		⚠			

IP Camera Address:

Protocol:

Management Port:

Transfer Protocol:

User Name:

Camera Password:

Use Camera Activation: ☐

Add More Add Cancel

図 6-9 IP カメラの追加

3. ネットワークカメラのパラメータを入力します。

カメラ起動パスワードの使用

これが有効な場合、ビデオレコーダーは設定されたチャンネル・デフォルト・パスワードでカメラを追加します。

4. 追加をクリックする。

異なるネットワークセグメントにネットワークカメラを追加する

ネットワークカメラが別のネットワークある、デバイスはIPアドレスの範囲内でそのIPアドレスを検索し、追加することができます。

始める前に

- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認して。

- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同じであることを確認してください。

ステップ

1. **Configuration→Camera→Camera→IP Channel**にアクセスしてください。
2. **詳細検索**をクリックします。
3. **ネットワークセグメント**を入力する。

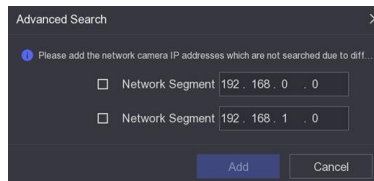


図 6-10 ネットワーク・セグメントの入力

4. **追加**をクリックする。

プラグアンドプレイでネットワークカメラを追加

非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティのONVIFカメラがネットワークに接続されている場合、ビデオレコーダーは自動的にカメラを検出して追加するか、手動でよう通知します。

ステップ

1. **Configuration→Camera→Camera→IP Channel**にアクセスしてください。
2. **もっと見る**
3. **プラグアンドプレイ**を選択します。
4. オプション**ネットワークカメラの自動追加**を有効にする。ビデオレコーダーは自動的に非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティのONVIFカメラを検出し、追加します。

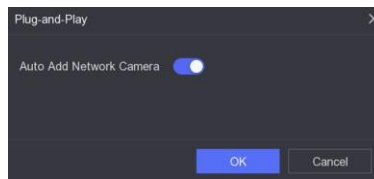


図 6-11 ネットワークカメラの自動追加



注

ネットワークカメラの自動追加をオフにすると、非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティのONVIFネットワークに接続された場合、ビデオレコーダーは自動的にそれを検出し、追加するように通知します。

ネットワークカメラの編集

ネットワークIPアドレス、プロトコル、その他のパラメータを編集できます。

ステップ

1. **Configuration→Camera→Camera**にアクセスしてください。

2. 追加したネットワーク  をクリックします。

チャンネル・ポート

接続するデバイスが複数のチャンネルを持つエンコーディングデバイスの場合、ドロップダウンリストからチャンネルポート番号を選択することで、接続するチャンネルを選択することができます。

3. オプション：カメラのIPアドレスを一括で編集するには、**[IPの編集]** をクリックします。システムは選択したカメラに順番にIP割り当てます。
4. **OK** をクリックする。

ネットワークカメラのアップグレード

ネットワークカメラは本機からリモートでアップグレードできます。

始める前に

- USBフラッシュメモリーをデバイスに挿入し、ネットワークカメラのアップグレードファームウェアが入っていることを確認します。
- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認して。

ステップ

1. **Configuration→Camera→Camera** にアクセスしてください。
2.  をクリックする。
3. **はい** をクリックして確定する。
4. ストレージデバイスからカメラのアップグレードファームウェアを選択します。
5. **アップグレード** をクリックしてアップグレードを開始します。アップグレードが完了すると、カメラは自動的に再起動します。

高度なカメラパラメータの設定

カメラIPアドレス、カメラパスワードなどの高度なカメラパラメータを設定できます。

始める前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認して。

ステップ

1. **Configuration→Camera→Camera** にアクセスしてください。
2.  をクリックする。
3. IPアドレス、カメラパスワードなどのカメラパラメータを設定します。
4. **Apply** をクリックする。

IPカメラ設定ファイルのインポート/エクスポート

追加されたネットワーク情報は、IPアドレス、ポート、管理者のパスワードなどを含むエクセルファイルに生成され、バックアップのためにローカルデバイスにエクスポートすることが。また、エクスポートされたファイルはコンピュータ上で編集することができます。

エクセルファイルを他のインポートする。

始める前に

USBフラッシュドライブなどのバックアップデバイスをビデオレコーダーに接続します。

ステップ

1. **Configuration→Camera→Camera**にアクセスしてください。
2. もっと見る
3. **Export/Import (エクスポート/インポート)]** をクリックし、接続されているバックアップデバイスに設定ファイルをエクスポート/インポートします。
4. ストレージデバイスとフォルダの設定します。
5. エクスポート/インポート

をクリックします。次にする

こと

インポートが完了したら、ビデオレコーダーを再起動してください。

詳細設定

ステップ

1. **Configuration→Camera→Camera**にアクセスしてください。
2. もっと見る
3. パラメータはお好みで設定してください。

H.265自動スイッチ構成

このオプションを有効にすると、初回アクセス時にネットワークカメラ（H.265ビデオフォーマットに対応）のH.265ストリームに自動的に切り替わります。

アップグレード

追加したネットワークアップグレードする。

輸出入

追加したネットワークカメラの情報をエクセルファイルに生成し、IPアドレス、ポート、管理者のパスワードなどをバックアップ用にローカルデバイスにエクスポートすることができます。また、エクスポートしたファイルはパソコン上で内容の追加や削除などの編集が可能で、エクセルファイルを他の機器にインポートして設定をコピーすることもできます。

プロトコル

標準プロトコルで設定されていないネットワークカメラを接続するには、カスタマイズしたプロトコルを設定します。システムには16のカスタマイズされたプロトコルが用意されています。

カメラ起動パスワード設定

ネットワーク・カメラを有効化および追加するためのデフォルト・パスワードを変更します。すでに接続されているネットワークカメラについては、次のプ アップ・ ウィンドウでパスワードをこの変更することを選択できます。

パッチ構成

デバイスは、SVC機能を有効にするか、または選択した時刻を自動的に同期させることができます。

ネットワークカメラ

6.3.3 ディスプレイ設定

OSD（オンスクリーンディスプレイ）、画像設定、露出設定、デイナイトスイッチ設定などを行います。

ステップ

1. Configuration（設定→「Camera（カメラ）→「Display（表示）」に進みます。
2. セットカメラ。
3. パラメータはお好みで設定してください。

OSD設定

カメラのOSD（オンスクリーンディスプレイ）設定（日付／時刻、カメラ名など）。

画像設定

ライブビューや録画効果の明るさ、コントラスト、彩度などの画像パラメータをカスタマイズできます。

露出

カメラの露光設定します（1/10000～1秒）。露出値を大きくすると画像が明るくなります。

デイナイトスイッチ

カメラは、周囲の照明条件やタイムスケジュールに応じて、デイモード、ナイトモード、オートモード、スケジュールスイッチモードに設定できます。

バックライト

カメラのワイドダイナミックレンジ（0～100）を設定します。周囲の明るさと被写体の明るさの差が大きい場合は、WDR値を設定します。

画像補正

画像の最適化する。

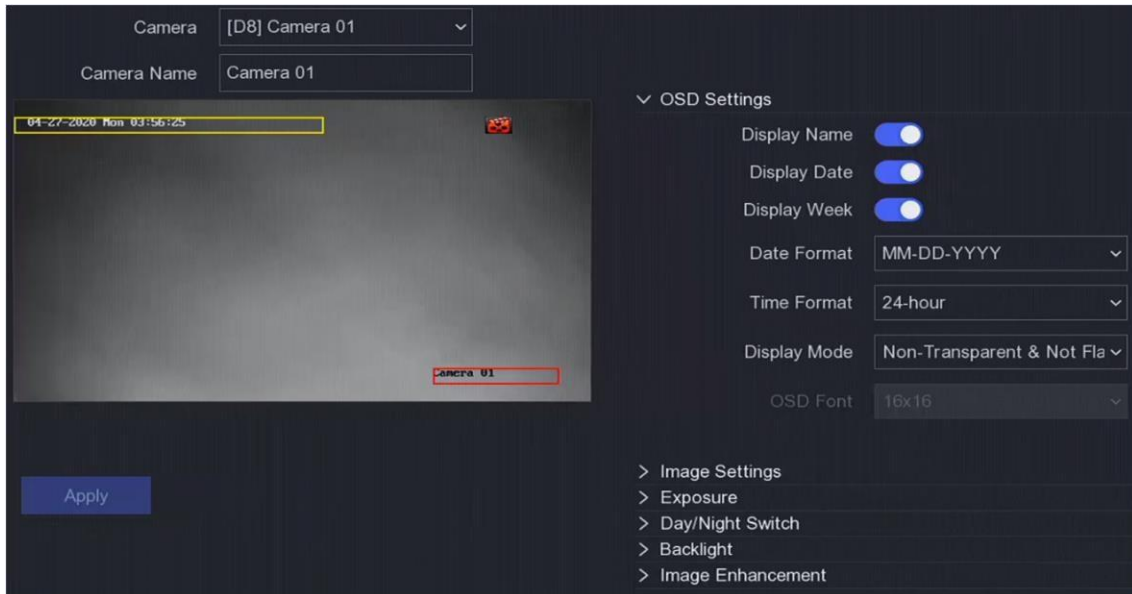


図6-12 OSD

4. プレビューウィンドウのテキストフレームをドラッグして、OSDの位置を調整します。
5. **Apply** をクリックする。

カメラパラメータの設定

デイナイトモード、補助光モードなど、カメラのパラメータを設定できます。

ステップ

1. **カメラ**→**表示**に移動します。
2. ご希望のカメラをお選びください。
3. **カメラ名**で名前を編集する。
4. パラメータを設定する。

シグナルスイッチ

信号切替スイッチで4MP/5MP信号を切替えます。4MP 25/30fps と 5MP 20fps が選択可能です。4MP 25fpsと4MP 30fpsの信号はカメラに自己適応します。

デフォッグを有効にする

Enable Defogを**チェック**して、選択したカメラのデフォッグ機能を有効にします。また、**Defog Level**を**1**から**4**の間で設定します。

昼→夜感度/夜→昼感度

カメラの**昼間から夜間の感度**、**夜間から昼間の感度**、**赤外線**の明るさなどのパラメータを調整します。**デイ・ツー・ナイト・センシティビティ**、**ナイト・ツー・デイ・センシティビティ**、**IRライト・ブライトネス**のデフォルト値は5です。

デイ/ナイト・モード

ドロップダウンリストからカメラの**デイナイトモード**を選択します。
 デイモードについては、画像は常にカラーである。ナイトモードでは、画像は

黒／白

WDRスイッチ

WDR Switchをチェックし、カメラの機能を有効にします。

5. オプション：コピー をクリックして、現在のカメラのパラメータを他のカメラにコピーします。
6. オプション：Apply をクリックして設定を保存する。



パラメータは接続されたカメラに保存され、DVRには保存されません。インターフェイスを終了して再度入力すると、表示されるパラメータは前回設定したパラメータになります。カメラパラメータの設定は、これらの機能をサポートするカメラにのみ適用されます。

6.3.4 プライバシー・マスク

閲覧や録画ができないプライバシーマスク領域を設定することができます。

ステップ

1. 設定]→ [カメラ]→ [プライバシーマスク]に進みます。
2. カメラを選択する。
3. Enableをオンにする。

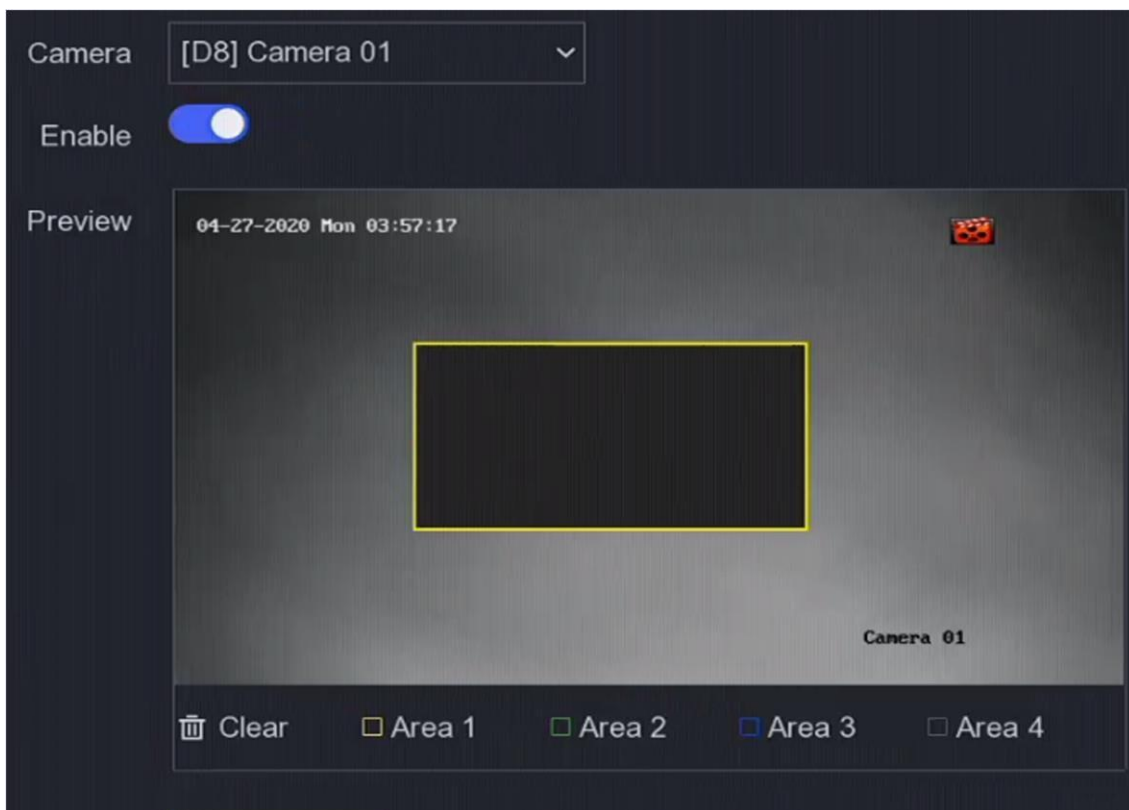


図6-13 プライバシー・マスク

4. ドラッグしてウィンドウ上に領域を描きます。領域の枠は異なる色でマークされます。



最大4つのプライバシーマスク領域を設定可能。各エリアのサイズは調整可能。

5. **Apply** をクリックする。

6.4 デバイスアクセス

6.4.1 スイッチ

スイッチの追加と管理

クイック・アド・スイッチ

ビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにスイッチをクイック追加。スイッチが起動していない場合は、カメラの起動パスワードで追加されます。

ステップ

1. **Configuration→Device Management→Switch** に進みます。
2. **オンラインデバイスリスト**で、追加するスイッチにチェックを入れ、**[追加]**をクリックして、カメラの起動パスワードを使用してビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにスイッチを追加します。

手動でスイッチを追加

ステップ

1. **Configuration→Device Access→Switch** に進む。
2. **追加されたデバイスリスト**で、**[Add]**をクリックし、デバイスのパラメータを設定します。

表 6-1 デバイス・パラメータの説明

パラメータ	説明
IPアドレス	スイッチのIPアドレス。
管理ポート	デフォルト設定のままにしておくことをお勧めします。
ユーザー名 / パスワード	スイッチのユーザー名/パスワード。
カメラ起動パスワードの使用	ビデオレコーダーのカメラ起動パスワードを使用して、スイッチを追加します。

3. **Add and Continue**をクリックし、すべてのデバイスが追加されるまで操作を繰り返します。

4. 追加をクリックする。

6.4.2 IPスピーカー

IPスピーカーの追加と管理IPスピーカーをカメラにリンクして、サウンドアラームリンクと双方向オーディオを実現できます。

IPスピーカーのクイック追加

ビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにIPスピーカーをすばやく追加します。IPスピーカーが起動されていない場合は、カメラの起動パスワードで追加されます。

ステップ

1. **Configuration→Device Access→IP Speaker**にアクセスしてください。
2. **オンラインデバイスリスト**で、追加するIPスピーカーをチェックし、**[追加]**をクリックして、カメラの起動パスワードを使用してビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにIPスピーカーを追加します。



IPスピーカーは最大4台まで追加可能。

IPスピーカーを手動で追加

ステップ

1. **Configuration→Device Access→IP Speaker**にアクセスしてください。
2. 追加された**デバイスリスト**で、**[Add]**をクリックし、デバイスのパラメータを設定します。

表 6-2 デバイス・パラメータの説明

パラメータ	説明
IPアドレス	IPスピーカーのIPアドレス。
管理ポート	デフォルト設定のままにしておくことをお勧めします。
ユーザー名 / パスワード	IPスピーカーのユーザー名/パスワード。
カメラ起動パスワードの使用	ビデオレコーダーのカメラ起動パスワードを使用して、IPスピーカーを追加します。

3. **Add and Continue**をクリックし、すべてのデバイスが追加されるまで操作を繰り返します。



IPスピーカーは最大4台まで追加可能。

4. 追加をクリックする。

IPスピーカーをチャンネルにリンク

IPスピーカーはカメラと連動し、サウンドアラーム連動や双方向音声を実現する。

ステップ

1. **Configuration→Device Access→ IP Speaker**にアクセスしてください。
2. 追加されたデバイスリストでデバイスを選択し、をクリックします。
3. リンクするチャンネルを選択します。
4. **OK**をクリックする。

バッチ時間同期

IPスピーカーの一括時刻同期に対応。

ステップ

1. **Configuration→Device Access→ IP Speaker**にアクセスしてください。
2. 追加されたデバイスリストで、**［バッチ時間同期］**をクリックします。
3. 時間同期を有効にするをオンにします。
4. 時間同期間隔の設定。
5. **OK**をクリックする。

オーディオパラメーターの設定

ステップ

1. **Configuration→Device Access→ IP Speaker**にアクセスしてください。
2. **Audio Parameter**をクリックします。
3. IPスピーカーの音量を設定します。

メディアライブラリー

外部ストレージからメディアライブラリーへのオーディオのインポートをサポート。

ステップ

1. **Configuration→Device Access→ IP Speaker**にアクセスしてください。
2. 追加されたデバイスリストで、**メディアライブラリー**をクリックします。
3. 音声をインポートIPスピーカーを選択します。
左側のリストでIPスピーカーを選択し、**Import**をクリックします。**Batch Import Audio**をクリックし、IPスピーカーを選択し、**OK**をクリックします。
4. デバイス名、パス、オーディオファイルを選択します。
5. **インポート**をクリックする。



1MB以内のMP3またはWAVファイルであること。

6.5 イベント構成

6.5.1 通常イベント

モーション検出

動体検知機能により、ビデオレコーダーは監視エリア内の動く物体を検知し、アラームを作動させることができます。

ステップ

1. **設定**]→[**カメラ→モーション検出**]に進みます。
2. カメラを選択します。
3. **有効**をチェックする。
4. 動体検知エリアを設定します。
 - ー エリアを描画またはクリアするには、**Draw Area**または**Clear**をクリックします。最初の領域はデフォルトでフルスクリーンに設定されています。
 - ー **フルスクリーン**]をクリックすると、動体検知領域がフルスクリーンとして設定されます。プレビューウィンドウ上でドラッグして動体検知エリアを描画することができます。
5. **感度**を調整します。感度を調整することで、動きがアラームをトリガーしやすくなります。値が高いほど、動体検知をトリガーしやすくなります。
6. 分析モードを**AI**または**PIR**に設定します。

AI

動体検知イベントはデバイスによって分析されます。

PIR

動体検知イベントは特定のアナログPIRカメラによって分析される。

7. オプション：人間または車両によってトリガーされなかったアラームを破棄するには、**ターゲット検出**を**人間**または**車両**に設定します。
8. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、[「Configure Arming Schedule」](#)を参照してください。
9. 連動アクションを設定します。詳細は「[アラーム連動アクションの設定](#)」を参照してください。
10. **Apply** をクリックする。

ビデオ改ざん

レンズが覆われたときにアラームをトリガーし、アラームに対応するアクションを実行します。

ステップ

1. **Configuration→Event→Normal Event→Video Tampering**にアクセスしてください。

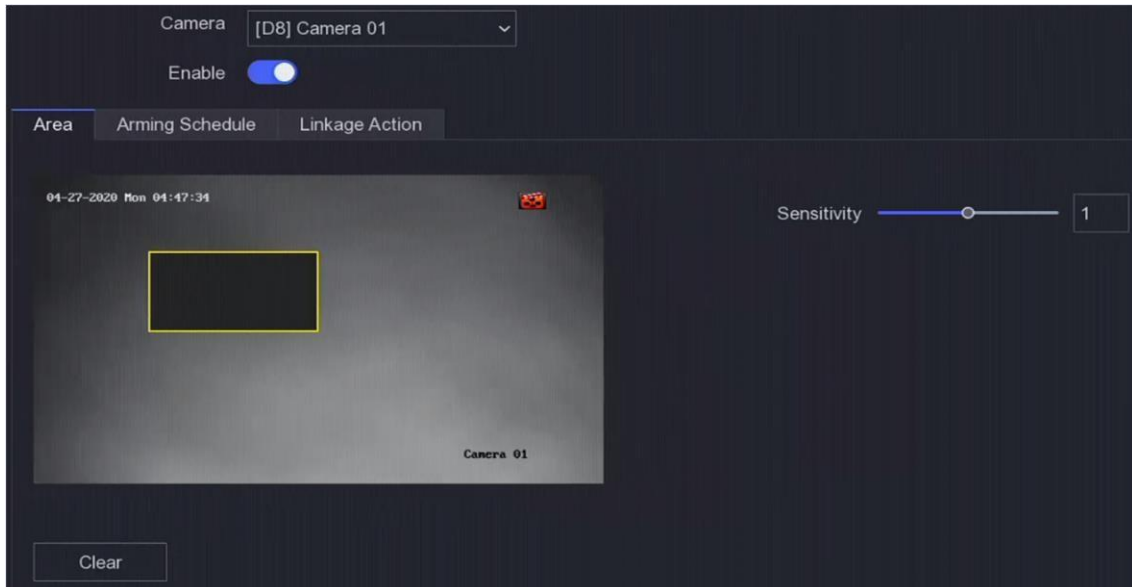


図 6-14 ビデオの改ざん

2. セットカメラ。
3. **Enable**をオンにする。
4. **Sensitivity（感度）**をお好みで調整してください。数値が高いほど、ビデオ改ざんがトリガーされやすくなります。
5. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、[「Configure Arming Schedule」](#)を参照してください。
6. 連動アクションを設定します。詳細は「[アラーム連動アクションの設定](#)」を参照してください。
7. **Apply**をクリックする。

ビデオロス

カメラのビデオ損失を検出し、アラーム対応アクションを実行します。

ステップ

1. **Configuration→Event→Normal Event→Video Loss** にアクセスしてください。
2. セットカメラ。
3. **Enable**をオンにする。
4. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、[「Configure Arming Schedule」](#)を参照してください。
5. 連動アクションを設定します。詳細は「[アラーム連動アクションの設定](#)」を参照してください。
6. **Apply**をクリックする。

アラーム入力

外部センサーアラームのリンケージアクションを設定します。

ステップ

1. **Configuration→Event→Normal Event→Alarm Input** へ。

Alarm Input No.	Alarm Name	Alarm Type	Enable	Operation
Local<-1		N.O	No	
Local<-2		N.O	No	
Local<-3		N.O	No	
Local<-4		N.O	No	

図 6-15 アラーム入力



ローカルアラーム入力：ローカルアラーム入力は、ビデオレコーダーの端子台に接続された外部機器によってトリガーされます。

2. クリックします。

Alarm Input No. Local<-1

Type N.O

Alarm Name

Settings

☒ Nonuse

☐ Input

☐ One-Key Disarming

図 6-16 アラーム入力の編集

3. アラーム名のカスタマイズ
4. アラームタイプを**N.O**（ノーマルオープン）または**N.C**（ノーマルクローズ）に設定します。
5. 機能を有効にするには、「設定」を「入力」に設定します。



設定を不使用に設定すると、アラーム入力は無効になります。設定をワンキー解除に設定すると、アラーム入力の選択された連動方法が無効になります。

6. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、[「Configure Arming Schedule」](#)を参照してください。
7. 連動アクションを設定します。詳細は「[アラーム連動アクションの設定](#)」を参照してください。
8. **Apply** をクリックする。

アラーム出力

アラームがされたときにアラーム出力をトリガーします。

ステップ

1. **Configuration→Event→Normal Event→Alarm Output** にアクセスしてください。

Alarm Output No.	Alarm Name	Dwell Time	Operation
Local->1		5s	

図 6-17 アラーム出力

2. をクリックします。
3. アラーム名のカスタマイズ
4. 滞留時間を選択する。



図 6-18 アラーム出力の編集

5. 設定を入力に設定して機能を有効にする。
6. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、[「Configure Arming Schedule」](#)を参照してください。
7. **Apply** をクリックする。

例外

例外イベントは、ライブビューウィンドウのイベントヒントを取り、アラーム出力とリンケージアクションをトリガーするように設定できます

ステップ

1. **Configuration→Event→Normal Event→Exception**へ。
2. イベントヒントを設定します。設定したイベントが発生すると、アラームセンターにヒントが表示されます。
 - 1) イベントヒントを有効にする。
 - 2) ヒントとなるイベントを選択します。から選ぶ：
 - をクリ、 してください。をクリックしてイベントを選択します。
 - をクリ、 してください。をクリックしてアラームセンターに入り、イベントを選択します。
3. 例外の種類を選択し、そのリンクアクションを設定する。

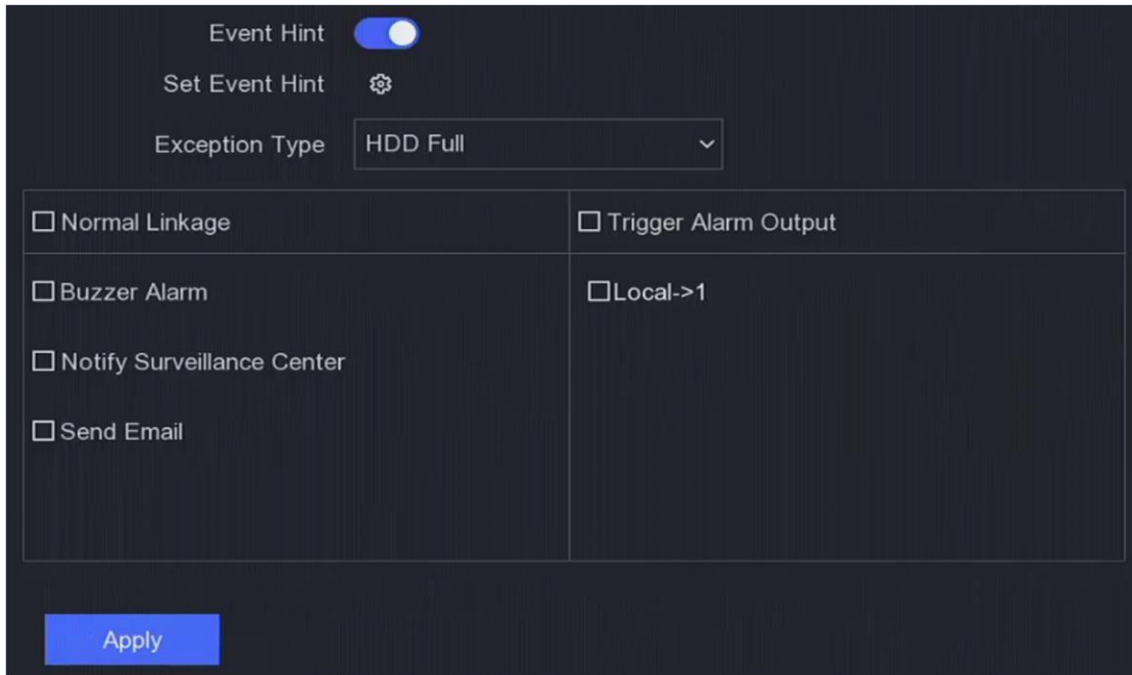


図 6-19 例外

4. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、[/Configure Arming Schedule](#)」を参照してください。
5. **Apply** をクリックする。

点滅光警報出力

光と音声アラームカメラが接続されている場合、点滅時間、点滅頻度、点滅光アラームのアラームスケジュールを設定できます。

始める前に

光と音声アラームカメラが接続されている。

ステップ

1. **Configuration**→**Event**→**Normal Event**→**Flashing Light Alarm Output** に移動します。
2. 任意の行の  をクリックする。
3. **点滅時間**と**点滅頻度**を設定します。
4. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、[/Configure Arming Schedule](#)」を参照してください。
5. クリックセーブ。

音声アラーム出力

ライトとオーディオアラームカメラが接続されている場合、オーディオアラームのパラメータとアーミングスケジュールを設定できます。

始める前に

光と音声アラームカメラが接続されている。

ステップ

1. **Configuration** → **Event** → **Normal Event** → **Flashing Light Alarm Output** に移動します。
2. 任意の行の  をクリックする。
3. 音声の種類をアラーム音、プロンプト音、またはカスタム音声から選択します。



アラーム音を選択する際、アラーム音のタイプも選択する必要があります。アラーム音を選択する際、カスタムオーディオをアップロードする必要があります。オーディオ名を入力し、**カスタムオーディオ**のドロップダウンボックスでアップロードされたオーディオを選択します。

4. アラーム時間と音量を設定します。
5. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、**「Configure Arming Schedule」**を参照してください。
6. クリックセーブ。

6.5.2 周辺保護

境界保護には、ライン交差検出、侵入検出、領域入口検出、領域出口検出が含まれる。



境界保護は、特定のデバイスモデルまたはカメラモデルでのみ利用可能です。

踏切検出

ラインクロス検出は、設定された仮想横切る人、車両、物体を検出する。検出方向は、左から右、または右から左の双方向に設定できます。

ステップ

1. **Configuration** → **Event** → **Perimeter Protection** → **Line Crossing** に進む。
2. セットカメラ。
3. **VCAモード**を選択しま

す。**NVR**による

イベントは**NVR**によって分析される。このデバイスは、人間と車両。選択したタイプ（人間または車両）のターゲットのみがアラームをトリガーするため、他の物体による誤報を減らすことができます。

カメラ

イベントはカメラで分析される。

4. **Enable**をオンにする。
5. 検出ルールと検出設定する。
 - 1) **アーミングエリア**を設定する。
 - 2) 方向を**A<->B**、**A->B**、**A<->B**のいずれかに設定する。

A<->B

B側の矢印のみが表示されます。設定されたラインを横切る物体を検出し、アラームをトリガーすることができます。

A->B

A側からB側へ設定されたラインを横切る物体のみをすることができます。

B->A

B側からA側へ設定されたラインを横切る物体のみをすることができます。

- 3) **最大サイズ**をクリックします。**サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウで四角形を描画して、描画領域の最大サイズを設定します。
- 4) **最小サイズ**をクリックします。**サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウで四角形を描画して、描画領域の最小サイズを設定します。
- 5) **領域を描画**をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビュー・ウィンドウに四角形を描画する。
6. **感度**を調整します。感度を調整することで、動きがアラームをトリガーしやすくなります。値が高いほど、動体検知をトリガーしやすくなります。
7. オプション：**検出対象を人間または車両**に設定し、人間または車両によってトリガーされなかったアラームを破棄する。



この機能は一部のモデルでのみ利用可能です。

8. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、[「Configure Arming Schedule」](#)を参照してください。
9. 連動アクションを設定します。詳細は「[アラーム連動アクションの設定](#)」を参照してください。
10. **Apply** をクリックする。

侵入検知

侵入検知機能は、あらかじめ定義された仮想領域内に侵入したり、うろついたりする人や車両、物体を検知する。

ステップ

1. **Configuration**→ **Event**→ **Perimeter Protection**→ **Intrusion** に進む。
2. 設定するカメラを選択します。
3. **Enable**をオンにする。
4. 検出ルールと検出設定する。
 - 1) **アーミングエリア**を選択します。
 - 2) **時間しきい値**と**感度**を調整する。**感度**

アラームを作動させる物体の大きさ。値が大きいほど、アラームが作動しやすい。
検出アラームがトリガーされます。その範囲は [1-100] です。

時間のしきい値

範囲[1s-10s]、領域物体がうろうろしている時間のしきい値。定義された検出領域内のオブジェクトの時間が設定された時間より長い場合、アラームがトリガーされます。

- 3) オプション：人体または車両によってトリガーされないアラームを破棄するには、**ターゲット検出を人間または車両**に設定します。



この機能は一部のモデルでのみ利用可能です。

- 4) **領域を描画** をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビュー・ウィンドウに四角形を描画する。
5. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、[「Configure Arming Schedule」](#)を参照してください。
6. 連動アクションを設定します。詳細は「[アラーム連動アクションの設定](#)」を参照してください。
7. **Apply** をクリックする。

領域入口検出

領域進入検知機能は、あらかじめ定義された仮想領域に外部から進入する人、車両、その他の物体を検知し、アラームがトリガーされたときに特定のアクションを実行することができます。

ステップ

1. **Configuration → Event → Smart Event → Region Entrance**にアクセスしてください。
2. セットカメラ。
3. **VCAモード**を選択しま

す。**NVR**による

イベントはNVRによって分析される。このデバイスは、人間と車両。選択したタイプ（人間または車両）のターゲットのみがアラームをトリガーするため、他の物体による誤報を減らすことができます。

カメラ

イベントはカメラで分析される。

4. **Enable**をオンにする。
5. オプション：**Save VCA Picture**をチェックして、VCAキャプチャ画像を保存します。
6. 検出ルールと検出設定する。
 - 1) **アーミングエリア**の設定。最大4つのアーミングエリアが選択可能。
 - 2) **感度**を調整する。**感度**：範囲[0-100]。数値が高いほど検知アラームが作動しやすくなります。
 - 3) オプション：人体または車両によってトリガーされないアラームを破棄するために、**検出ターゲットを人間または車両**に設定します。
 - 4) **最大サイズ**をクリックします。**サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウで四角形を描画して、最大描画領域のサイズを設定します。
 - 5) **最小サイズ**をクリックします。**サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウで四角形を描画して、描画領域の最小サイズを設定します。

- 6) **領域を描画** をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビュー・ウィンドウに四角形を描画する。
7. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、[「Configure Arming Schedule」](#)を参照してください。
8. 連動アクションを設定します。詳細は「[アラーム連動アクションの設定](#)」を参照してください。
9. **Apply** をクリックする。

リージョン退出検出

領域退出検出機能は、事前に定義された仮想領域から退出する人、車両、またはその他の物体を検出し、アラームがトリガーされたときに特定のアクションを実行することができます。

ステップ

1. **Configuration→Event→Smart Event→Region Exiting**に移動します。
2. セットカメラ。
3. **VCAモード**を選択しま

す。**NVR**による

イベントは**NVR**によって分析される。このデバイスは、人間と車両。選択したタイプ（人間または車両）のターゲットのみがアラームをトリガーするため、他の物体による誤報を減らすことができます。

カメラ

イベントはカメラで分析される。

4. **Enable**をオンにする。
5. オプション：**Save VCA Picture**をチェックして、VCAキャプチャ画像を保存します。
6. 検出ルールと検出設定する。
 - 1) **アーミングエリア**の設定。最大4つのアーミングエリアが選択可能。
 - 2) **感度**を調整する。**感度**：範囲[0-100]。数値が高いほど検知アラームが作動しやすくなります。
 - 3) オプション：人体または車両によってトリガーされないアラームを破棄するために、**検出ターゲット**を人間または**車両**に設定します。
 - 4) **最大サイズ**をクリックします。**サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウで四角形を描画して、描画領域の最大サイズを設定します。
 - 5) **最小サイズ**をクリックします。**サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウで四角形を描画して、描画領域の最小サイズを設定します。
 - 6) **領域を描画** をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビュー・ウィンドウに四角形を描画する。
7. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、[「Configure Arming Schedule」](#)を参照してください。
8. 連動アクションを設定します。詳細は「[アラーム連動アクションの設定](#)」を参照してください。
9. **Apply** をクリックする。

6.5.3 非映像イベント

ビデオ以外のイベントを設定する。

ステップ

1. Configuration→Device Management→Non-Video Eventにアクセスする。
2. デバイスを選択します。
3. アラームの内容を選択します。
4. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、[「Configure Arming Schedule」](#)を参照してください。
5. 連動アクションを設定します。詳細は「[アラーム連動アクションの設定](#)」を参照してください。
6. Apply をクリックする。

6.5.4 その他のイベント

サーマルカメラ検出

このデバイスは、サーマルネットワークカメラのイベント検出モード（火災検出、温度検出など）をサポートしています。選択したイベントのアーミングスケジュールとリンクアクションを設定できます。

始める前に

お使いのデバイスにサーマルネットワークカメラを追加し、カメラが起動していることを確認します。

ステップ

1. Configuration→Event→Other Events にアクセスする。
2. サーマルカメラの検出イベントを選択します。
3. セットカメラ。
4. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、[「Configure Arming Schedule」](#)を参照してください。
5. 連動アクションを設定します。詳細は「[アラーム連動アクションの設定](#)」を参照してください。
6. Apply をクリックする。

6.5.5 アラームスケジュールの設定

ステップ

1. Arming Schedule をクリックします。
2. 曜日を1つ選び、時間区分を設定する。各曜日で最大8つの時間帯を設定できます。



注

時間帯は重複してはならない。

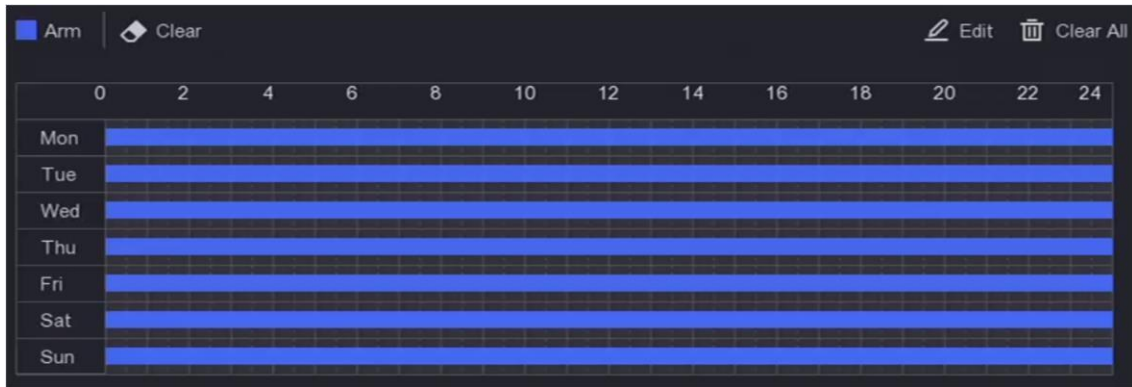


図 6-20 アラームスケジュールの設定

3. **Apply** をクリックする。

6.5.6 アラーム連動アクションの設定

アラーム設定ポップアップウィンドウ

アラームがトリガーされると、ローカルモニターはフルスクリーン モニタリング用に設定されたアラームチャンネルのビデオ画像をフルスクリーンで表示します。また、複数のチャンネルで同時にアラームがトリガーされた場合、自動切替の滞留時間を設定する必要があります。

ステップ

1. **Configuration→System→Live View→General**にアクセスしてください。
2. イベント出力と滞留設定する。

アラームポップアップ出力

イベントビデオを表示する出力を選択します。

アラームポップアップ遅延

アラームイベント画像を表示する時間を秒単位で設定します。複数のチャンネルで同時にアラームがトリガーされた場合、それらのフルスクリーン画像は10秒間隔（）で切り替わります（デフォルトの滞留時間）。

3. アラーム検出の**連動アクション**をクリックします。
4. **アラームポップアップウィンドウ**のアラームリンクアクションを選択します。
5. トリガーチャンネル設定で、フルスクリーン監視にしたいチャンネルを選択します。



アラームが停止し、ライブビューインターフェースに戻ると、自動切り替えは終了します。

ブザーアラームの設定

音声警告では、アラームが発生したときにビデオレコーダーがビープ音を鳴らすことができます。

を検出した。

ステップ

1. **Configuration→System→Live View→General**にアクセスしてください。
2. オーディオをオンにし、ボリュームを設定します。
3. アラーム検出の連動アクションインターフェイスに移動する。
4. **ブザーアラーム**連動動作を選択する。

監視センターに通知

イベントが発生すると、ビデオレコーダは例外またはアラーム信号をリモートアラームホストに送信できます。アラームホストとは、クライアントソフトウェア（例：iVMS-4200、iVMS-5200）がインストールされたコンピュータを指します。

ステップ

1. **Configuration→Network→General→More Settings**にアクセスしてください。
2. アラームホストIPとアラームホストポートを設定します。
3. アラーム検出の連動アクションインターフェイスに移動する。
4. **サーベイランスセンターに通知**を選択します。

Eメール連携の設定

ビデオレコーダーは、アラームが検出されると、アラーム情報を含む電子メールをユーザーまたはユーザーに送信できます。

ステップ

1. **Configuration→Network→Email** にアクセスする。
2. 行う。
3. アラーム検出の連動アクションインターフェイスに移動する。
4. アラームリンクアクションとして「**電子メールを送信**」を選択します。

トリガーアラーム出力

アラーム出力は、ノーマル・イベントとスマート・イベントによってトリガーされる。

ステップ

1. アラーム入力またはイベント検出の連動アクションインターフェイスに移動する。
2. **トリガーアラーム出力**をクリックします。
3. トリガーするアラーム出力を選択します。
4. **Configuration→Event→Normal Event→Alarm Output** へ。
5. リストからアラーム出力項目を選択します。詳細は「[アラーム出力](#)」を参照してください。

PTZリンケージの設定

ビデオレコーダーは、アラームイベント時にPTZアクション（例えば、プリセット/パトロール/パターンを呼び出す）をトリガすることができます、

またはVCA検出イベントが発生する。

ステップ

1. アラーム入力またはVCA検出の **Linkage Action** インターフェースに移動します。
2. **PTZ Linkage**を選択します。
3. PTZアクションを実行するカメラを選択します。
4. アラームイベント発生時に呼び出すプリセット/パトロール/パターン番号を選択します。



図 6-21 PTZ リンケージ



連動動作は毎回1つのPTZタイプのみ設定できます。

6.6 記録管理

6.6.1 録画スケジュールの設定

ビデオレコーダーは、設定されたスケジュールに従って自動的に録画を開始/停止します。

連続録画の設定

ステップ

1. **Configuration**→**Record**→**Parameter**に進む。
2. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。
3. **Configuration**→**Record**→**Schedule**に進む。
4. 録画タイプを**連続**にする。

イベント記録の設定

通常イベントまたはスマートイベントによってトリガーされる録画を設定できます。

ステップ

1. **Configuration**→**Event**にアクセスする。
2. イベント検出を設定し、イベントが発生したときに録画をトリガするカメラを選択します。
3. **Configuration**→**Record**→**Parameter**に進む。

4. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。
5. **Configuration→Record→Schedule** に進む。
6. 録画タイプを「イベント」にする。

編集スケジュール

ステップ

1. **Configuration→Record→Schedule** に進む。

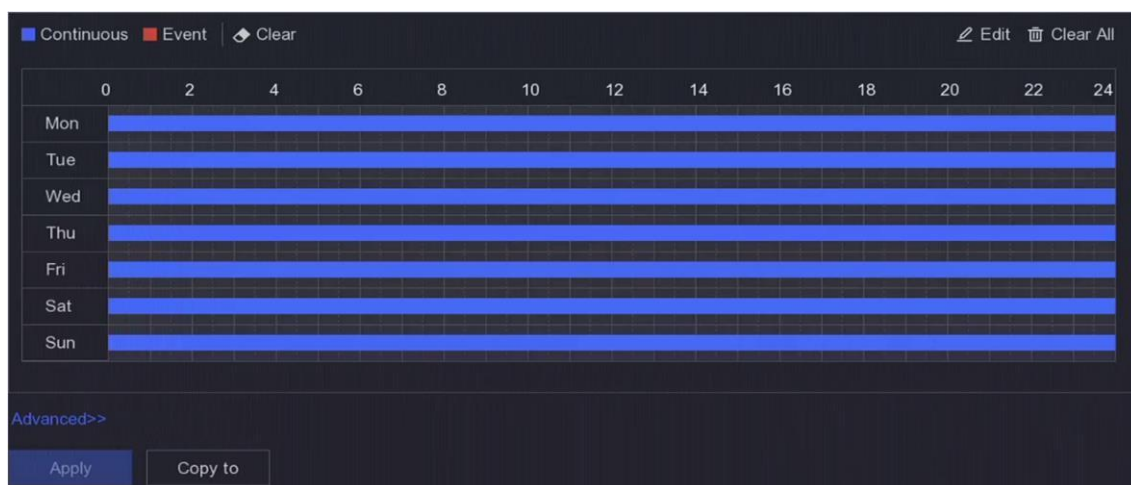


図6-22 録音スケジュール

連続

連続録画。

イベント

すべてのイベントトリガーアラームによってトリガーされる録画。

2. **カメラ番号**でカメラを選択します。
3. **Enable**をオンにする。
4. 録画スケジュールを設定する。
 - 1) **編集**をクリックする。
 - 2) **Weekday**で設定する日を選択します。
 - 3) 終日録画スケジュールを設定するには、「**終日**」をチェックし、「**スケジュールの種類**」を選択します。
 - 4) 他のスケジュールを設定するには、「**終日**」のチェックを外し、**開始/終了時刻**と**スケジュールの種類**を設定します。



注

1日に最大8つの期間を設定できる。また、期間同士を重複させることはできません。

- 5) **OK**をクリックして設定を保存し、上位メニューに戻る。



また、スケジュールの種類を「**連続**」または「**イベント**」から選択し、カーソルを希望の期間にドラッグしてカラーバーを描くこともできます。

5. 高度なパラメータを設定するには**Advanced**をクリックします。

オーディオの録音

ビデオ録音されます。

プレレコード

スケジュールされた時間またはイベントの前に録画するように設定した時間。例えば、アラームにより**10:00**に録画がトリガされた場合、録画前の時間を**5**設定すると、カメラは**9:59:55**に録画します。

ポストレコード

イベントまたはスケジュールされた時間の後に録画するように設定した時間。例えば、アラームが作動して録画が**11:00**に終了した場合、録画後の時間を**5**設定すると、**11:00:05**まで録画されます。

ストリーム・タイプ

メインストリームとサブストリームを選択して録画することができます。サブストリームを選択すると、同じ保存容量で長時間録画できます。

ビデオ/画像の有効期限

有効期限とは、録画したファイルをHDDに保存しておく期間です。期限に達するとファイルは削除されます。有効期限を**0**に設定すると、ファイルは削除されません。実際のファイルの保存時間は、HDDの容量に応じて決定してください。

6. **OK**をクリックして詳細設定を保存します。

7. **Apply** をクリックする。

6.6.2 録画パラメーターの設定

ステップ

1. **設定**→**記録**→**パラメータ**にアクセスして、カメラのメインストリームとサブストリームのパラメータを設定します。
2. 録画パラメーターを設定する。

メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されるデータに影響を与える主要なストリームのことで、ビデオの画質と画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較すると、メインストリームはより高い解像度とフレームレートでより高品質のビデオを提供します。

メインストリーム連続とは、通常録画のメインストリームを指す。
はイベント記録のメインストリームを指す。

サブストリーム

サブストリームは、メインストリームと並行して動作する第2のコーデックです。これにより、直接録画の品質を犠牲にすることなく、送信インターネット帯域幅を削減することができます。サブストリームは、ライブビデオを見るためのスマートフォンアプリケーションで独占的に使用されることがよくあります。インターネット速度が制限されているユーザーは、この設定から最も恩恵を受けることができます。

ストリーム・タイプ

録画にビデオとオーディオを含めるか、ビデオのみを含めるかを選択できます。

決議

画像の解像度は、デジタル画像がどの程度詳細な情報を保持できるかを示す尺度であり、解像度が高いほど詳細な情報が得られる。解像度は、ピクセルの列数（幅）×ピクセルの行数（高さ）指定することができます、例えば1024×768となります。

ビットレート・タイプ

可変ビットレート：ビットレートは異なるシナリオに基づいて調整され、ネットワーク帯域幅の高い利用率につながり、ストレージスペースを節約します。6段階の**ビデオ品質**を設定できます。**ビデオエンコード**形式として**H.265**を選択した場合、システムはH.265 Proエンコーディングを採用します：最大ビットレートでエンコードします。**ビデオ品質**は調整できません。

フレームレート

フレームレートとは、1秒間に何枚のフレームがキャプチャされるかを示す。ビデオストリームに動きがある場合、フレームレートが高い方が画質が維持されるため有利である。

最大ビットレートモード

一般：固定値のパラメータを選択できます：最大ビットレートの値をカスタマイズします。

ビデオエンコーディング

ビデオエンコーディング形式を選択します。オプションは接続されているカメラによって決まります。

H.265+を有効にする

H.265+モードは、低いビットレートで高いビデオ品質を確保するのに役立ちます。効果的に帯域幅とHDDストレージスペースの必要性を減らすことができます。

3. Apply をクリックする。

6.6.3 記憶装置

HDDの初期化

初めてHDDを使用する場合は、装着後に初期化を行ってください。

始める前に

ビデオレコーダーに少なくともHDDを取り付ける。

ステップ

1. **Configuration→Record→Storage** に進む。
2. HDDを選択します。
3. **Init**をクリックする。

データベースの修復

データベースにエラーがあるHDDを修復します。プロのテクニカルサポートの助けを借りて操作してください。

ネットワークディスクの追加

割り当てられたNASまたはIP SANディスクをビデオレコーダーに追加し、ネットワークHDDとして使用することができます。

ステップ

1. **Configuration→Record→Storage** に進む。
2. **追加**をクリックする。
3. **NetHDD**を設定します。
4. **タイプ**を**NAS**または**IPSAN**に設定する。
5. NetHDD IPアドレスを入力します。
6.  をクリックして利用可能なディスクを検索する。

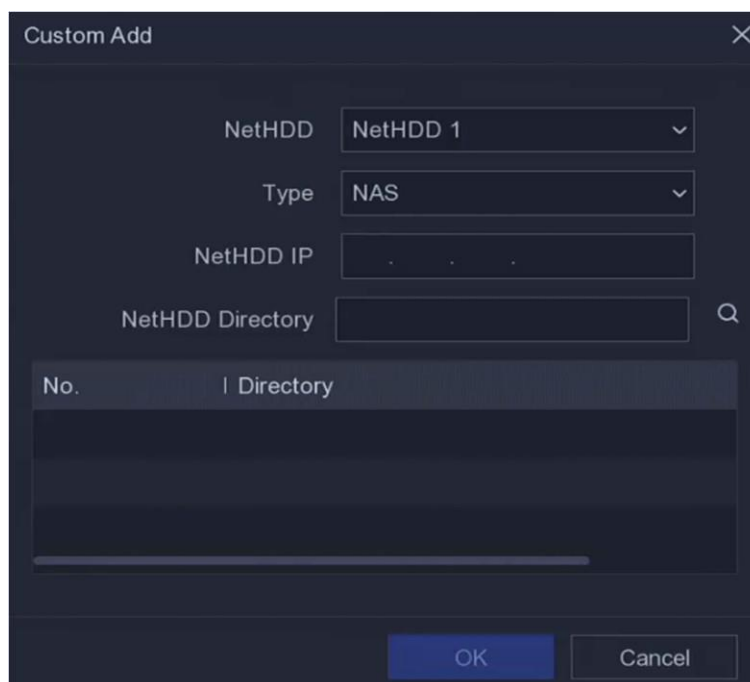


図 6-23 NetHDD の追加

7. リストからNASディスクを選択するか、**NetHDDディレクトリ**に手動でディレクトリを入力します。
8. **OK**をクリックする。



各ネットワーク・ディスクには最大8TBのストレージ容量が認められている。

結果

追加されたネットワークディスクがストレージデバイスリストに表示されます。

6.6.4 ストレージモードの設定

HDDクォータの設定

各カメラは、ビデオを保存するための割り当てられたクォータを設定することができます。

ステップ



この機能は一部のモデルでのみ利用可能です。

1. **Configuration→Record→Storage Mode**に進む。
2. **カメラ**でクォータを設定するカメラを選択します。
3. **レコード容量**にストレージ容量を入力する。



クォータ容量が0に設定されている場合、すべてのカメラはHDDの全容量をビデオと写真に使用します。

4. **Apply** をクリックする。
5. ビデオレコーダーを再起動すると、新しい設定が有効になります。

6.6.5 詳細設定

ステップ

1. **Configuration** → **Record** → **Advanced** に進む。
2. パラメータはお好みで設定してください。

上書き

- 無効にする：HDDがいっぱいになると、ビデオレコーダーは書き込みを停止します。
- 有効にする：ハードドライブがいっぱいになると、ビデオ録画は古いファイルを新しいファイルを書き続けます。

カメラVCAデータの保存

カメラVCAのデータが保存され検索できるようになります。



カメラ VCA データの保存 を無効にすると、既存のデュアル VCA および動体検知情報が削除され、デュアル VCA および動体検知情報の解析と保存が停止します。

アラーム・ストレージ

HDDの空き容量が十分でない場合、容量を節約するために無効にすることができますが、デバイスはアラーム情報の保存を停止します。

画像ストレージ

HDDの空き容量が十分でない場合、容量を節約するために無効にすることができますが、デバイスは、写真の保存を停止します。

6.7 顔写真ライブラリ管理

顔画像ライブラリは、主に顔画像の保存と顔画像の比較に使用されます。



このセクションは特定のモデルでのみ利用可能です。

6.7.1 顔写真ライブラリを追加する

顔写真ライブラリーは顔写真を保存するためのもので、顔写真の比較に欠かせない。

ステップ

1. **Configuration**→ **Face Picture Library**にアクセスします。
2. 認証のために管理者パスワードを入力する。
3. **追加**をクリックする。
4. 顔写真ライブラリ名を入力します。
5. **追加**をクリックし

ます。次にすること

顔写真ライブラリを追加した後、その名前を編集したり、したり、顔写真をアップロードことができます。

6.7.2 顔写真をライブラリにアップロードする

1枚の顔アップロードすることも、複数の顔写真をライブラリにインポートすることもできる。

始める前に

顔写真ライブラリを作成し、顔写真比較を有効にしていることを確認してください。

ステップ

1. **設定**→ **顔写真ライブラリ**にアクセスします。
2. 顔写真をアップロードする顔写真ライブラリを見つけて、をクリックする。
3. **追加**をクリックする。
4. 輸入写真



ライブラリに顔写真を1枚追加する。



複数の顔写真をライブラリに追加。



- JPGとJPEG形式のみサポート。
- 各画像のサイズは1MB以下であること。
- 画像解像度は80×80から1920×1080の間でなければならない。

第7章 メンテナンス

7.1 アップグレード

警告

アップグレード中はシャットダウンしたり電源を切ったりしないでください。

7.1.1 ローカル・アップグレード

始める前に

アップグレードファームウェアをバックアップデバイスに保存し、デバイスに接続します。

ステップ

1. をクリ  してください。  をクリックする。
2. クリック 。
3. ローカルアップグレードをクリックします。
4. デバイス名でバックアップデバイスを選択します。
5. アップグレードファームウェアを選択します。
6. アップグレードをクリックします。デバイスが自動的に再起動します。

7.1.2 オンライン・アップグレード

最新のオンラインファームウェアでデバイスをアップグレードする。

始める前に

Hik-Connectが有効で、適切に設定されていることを確認してください。詳細は[Hik-Connect](#)を参照してください。

ステップ

1. をクリ  してください。  をクリックする。
2. クリック 。
3. オンライン・アップグレードへ
4. 最新のファームウェアをダウンロードする。

自動ダウンロード 最新のファームウェアを自動的にチェックし、ダウンロードします。

アップグレードのテスト 最新のファームウェアを手動でチェックしてダウンロードするには、**Test Upgrade**をクリックします。

5. 新しいファームウェアバージョンが利用可能な場合は、デバイスをアップグレードしてください。デバイスは自動的に再起動します。

7.2 デフォルトに戻す

ステップ

1. 右  をクリックする。
2. 復元選択する。

シンプルリストア

ネットワーク（IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、MTU、NIC作業モード、デフォルトルート、サーバーポートなどを含む）とユーザーアカウントパラメーターを除くすべてのパラメーターを工場出荷時のデフォルト設定に戻す

工場出荷時設定

すべてのパラメーターを工場出荷時の設定に戻す。

非アクティブに戻す

デバイスを非アクティブ状態に戻し、ユーザーアカウントの復元を除くすべての設定を変更しない。

3. **Yes** をクリックします。デバイスが自動的に再起動します。

7.3 検索ログ

ビデオレコーダーの操作、アラーム、例外、情報はログに保存されいつでも閲覧やエクスポートが可能です。

ステップ

1. 右  をクリックする。
2. もっと見る
3. **ログ情報** をクリックします。
4. 検索条件を設定する。
5. **検索** をクリックする。

7.4 システムサービス

ステップ

1. 右  をクリックする。
2. もっと見る
3. **システムサービス** をクリックします。
4. パラメータはお好みで設定してください。

アールティーエスピー

RTSP認証を設定することで、ライブビューのストリームデータを特別に保護することができます。

RTSP認証

認証タイプは2種類から選択でき、**ダイジェスト**を選択した場合、ダイジェスト認証のリクエストのみがIPアドレス経由でRTSPプロトコルでビデオストリームにアクセスできます。セキュリティ上の理由から、認証タイプとして**ダイジェスト**を選択することをお勧めします。

アイエスエーピーアイ

ISAPI (Internet Server Application Programming Interface) は HTTP ベースのオープン・プロトコルで、システム・デバイス (ネットワーク・カメラ、NVR など) 間の通信を実現できます。ビデオ・レコーダーはサーバーとして使用され、システムはビデオ・レコーダーを見つけて接続することができます。

HTTP

管理ユーザー・アカウントは、GUI またはウェブ・ブラウザから HTTP サービスを無効にすることができる。HTTP が無効化されると、ISAPI や ONVIF を含む関連サービスもすべて終了します。

HTTP認証

HTTPサービスを有効に必要がある場合、HTTP認証を設定することで、アクセスのセキュリティを強化することができます。認証タイプは2種類から選択できます。セキュリティ上の理由から、認証タイプとして**ダイジェスト**を選択することをお勧めします。

カメラ追加検出

ネットワークカメラの状態を検出します。ネットワークカメラが他のビデオレコーダーによって追加された場合、ネットワークカメラのステータスはオンラインデバイスリストに  と表示されます。

IoTモニタリング

有効にすると、IoTチャンネルがリスニングに使用される。

5. **Apply** をクリックする。

7.5 ブザースイッチ

アラーム連動、例外連動でブザーの有効・無効を設定できます。

ステップ

1. 右  をクリックする。
2. もっと見る
3. ブザースイッチへ。
4. **Enable** をオンまたはオフにする。

7.6 機器メンテナンス

7.6.1 スケジュール再起動

デバイスはスケジュールに従って自動的に再起動します。

ステップ

1. 右  をクリックする。
2. もっと見る
3. **Device Maintenance**（デバイスメンテナンス→Schedule Reboot（スケジュール再起動）に進みます。
4. **Enable**をオンにする。
5. 再起動スケジュールを設定する。
6. **Apply** をクリックする。

7.6.2 カメラのアップグレード

追加されたデバイスリストのカメラをアップグレードします。

ステップ

1. クリックメンテナンス () → その他→デイスメンテナンス→カメラのアップグレード。
2. アップデートの**確認**をクリックします。
3. カメラのアップグレード
アップグレードするチャンネルを選択し、右側の**アップグレード**をクリックします。アップデートがあるすべてのチャンネルをアップグレードするには、**クイックアップグレード**をクリックします。

7.6.3 デバイスステータス

選択したチャンネルをミュートできます。

ステップ

1. 右  をクリックする。
2. もっと見る
3. デバイスメンテナンス→デバイスステータスに移動します。
4. **Mute and Not Disturb** 列で、対応するチャンネルをチェックします。

結果

選択したチャンネルがミュートされます。

7.6.4 時間同期診断

時間同期情報を表示し、時間同期例外検出を有効にします。

ステップ

1. 右  をクリックする。

2. もっと見る
 3. **Device Maintenance**（デバイスメンテナンス→**Time Sync Diagnosis**（時間同期診断））に進みます。現在の時刻同期情報を表示します。
 4. **Time Sync Configuration**をクリックします。
 5. **Enable Time Sync Exception Detection**（時間同期例外検出を有効にする）をオンにします。
-



複数の時間同期ソースの検出をサポートしています。複数の時間同期ソースが検出された場合、時間内に不要な時間同期ソースをオフにする必要があります。そうしないと、デバイスの時間が変更される可能性があり、録画に影響を与えます。RTCバッテリーが消耗している場合、デバイスの時間例外が発生し、ビデオロスや不正確な記録時間を引き起こす可能性があります。メインボードのボタン電池を交換し、時間をください。

6. **OK**をクリックする。

第8章 アラーム

イベントが発生すると、アラームセンターでその詳細を見ることができます。

8.1 イベントヒントの設定

アラームセンターでヒントにするイベントを選択します。

ステップ

1. 右  をクリックする。
2. ご希望のイベントタイプをお選びください。
3.  をクリックし、ヒントとなるイベントを選択する。
4. **OK** をクリックする。
選択したイベントが発生すると、アラーム情報が  （ローカルメニューの右上隅）に表示さ。

8.2 アラームセンターでアラームを見る

ステップ

1. ローカルメニューの右上にある  をクリックする。
2. ご希望のイベントタイプを選択してください。

第9章 ウェブ操作

9.1 はじめに

ウェブブラウザでビデオレコーダーにアクセスできます。

以下のウェブブラウザのいずれかをご利用ください：Internet Explorer 11.0、Apple Safari、Mozilla Firefox、Google Chrome。対応解像度は1024×768以上です。

モデルによってはウェブコンポーネントのプラグインをダウンロード、インストールする必要があります。そうしないと、いくつかの機能が使用できなくなります。ダウンロードアドレスは

<http://hikdownload.hs7.com/web/webplugin/windows/WebComponents/standard/WebComponents.exe> です。

9.2 ログイン

本製品をインターネットに接続して使用する場合、ネットワークセキュリティ上のリスクがあることをご了承ください。ネットワーク攻撃や情報漏えいを防ぐため、お客様ご自身でプロテクトを強化してください。本製品が正常に動作しない場合は、販売店または最寄りのサービスセンターまでご連絡ください。

ステップ

1. 開き、ビデオレコーダーのIPアドレスを入力し、**Enter**キーを押します。



HTTP ポートを変更した場合は、アドレス **http://IP アドレス:HTTP ポート** を入力してください。例： **http: 192.168.1.64:81**。

2. ログインインターフェイスでユーザー名とパスワードを入力する。
3. ログインをクリックする。

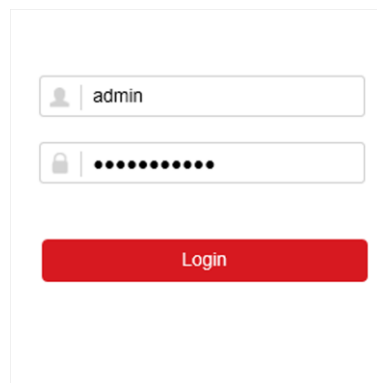
A screenshot of the login interface. It features two input fields: the first for the username 'admin' and the second for the password, which is masked with dots. Below these fields is a red button labeled 'Login'.

図9-1 ログイン

4. インストールのプロンプトに従って、プラグインをインストールします。



プラグインのインストールを終了するには、ウェブブラウザを閉じる必要があるかもしれません。

9.3 ライブビュー

ログイン後、ライブビューのインターフェイスが表示されます。



図9-2 ライブビュー

9.4 プレイバック

Playbackをクリックし、再生インターフェイスに入る。

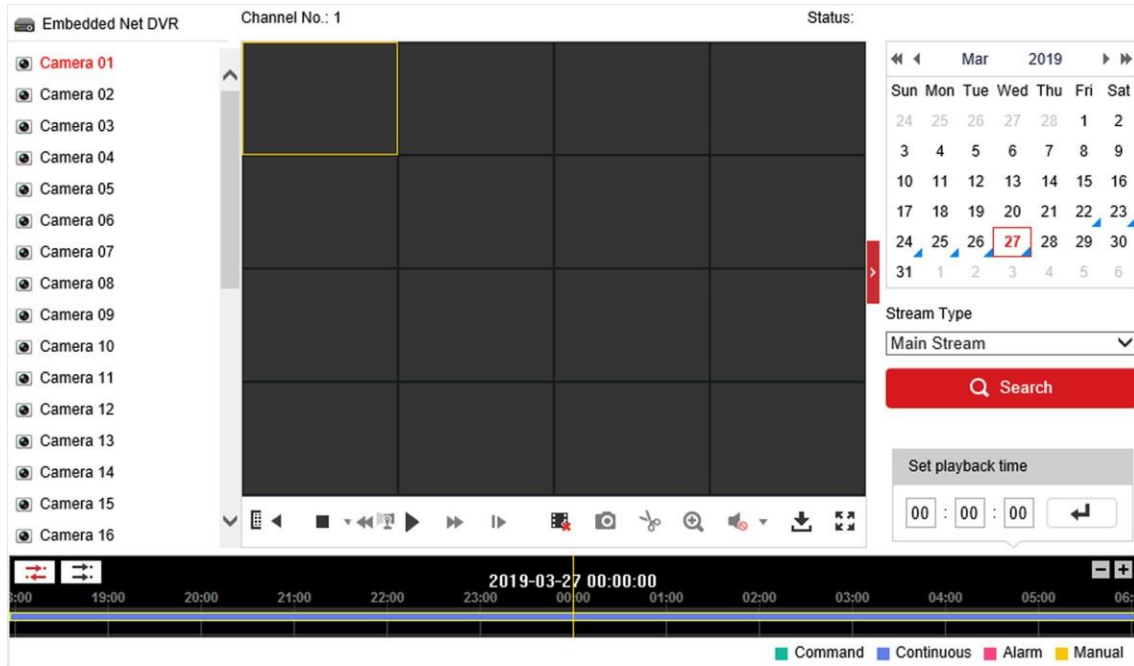


図9-3 再生

9.5 構成

Configurationをクリックして、コンフィギュレーション・インターフェイスに入ります。

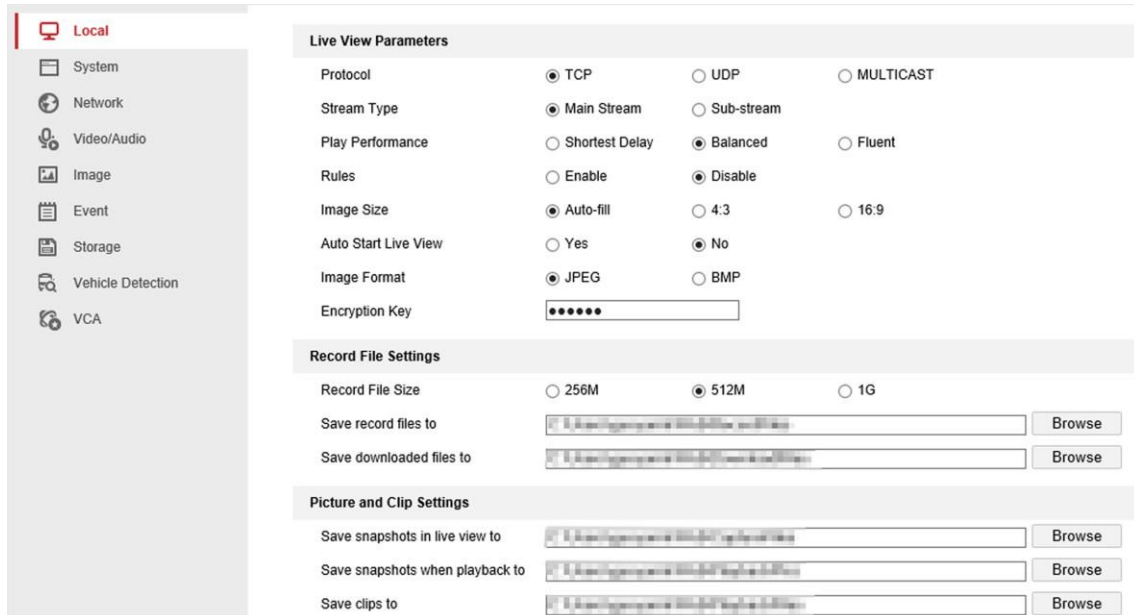


図9-4 構成

9.6 ログ

ステップ

1. Maintenance→System→Maintenance→Log にアクセスしてください。
2. 検索条件を設定する。
3. 検索をクリックする。

Upgrade & Maintenance Online Upgrade **Log** Diagnose

Major Type: All Types Minor Type: All Types

Start Time: 2019-03-27 00:00:00 End Time: 2019-03-27 23:59:59 Search

Log List Export

No.	Time	Major Type	Minor Type	Channel No.	Local/Remote User	Remote Host IP
-----	------	------------	------------	-------------	-------------------	----------------

Total 0 Items << < 0/0 > >>

図9-5 ログ

第10章 付録

10.1 用語集

デュアルストリーム

デュアルストリームは、高解像度のビデオをローカルに録画する一方で、低解像度のストリームをネットワーク経由で送信するために使用される技術です。2つのストリームはDVRによって生成され、メインストリームの最大解像度は1080P、サブストリームの最大解像度はCIFです。

DVR

Digital Video Recorderの略。DVRは、アナログカメラからのビデオ信号を受信し、信号を圧縮してハードディスクに保存することができる装置である。

HDD

ハードディスク・ドライブの略。デジタル符号化されたデータを磁性体表面のプラッタに保存する記憶媒体。

ディーエイチシーピー

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) は、インターネット・プロトコル・ネットワークで動作するための設定情報を取得するために、デバイス (DHCPクライアント) が使用するネットワーク・アプリケーション・プロトコルです。

HTTP

ハイパーテキスト・トランスファー・プロトコルの略。ハイパーテキストのリクエストや情報を、ネットワークを介してサーバーとブラウザーの間で転送するためのプロトコル。

PPPoE

PPPoE (Point-to-Point Protocol over Ethernet) は、PPP (Point-to-Point Protocol) フレームをイーサネットフレーム内にカプセル化するためのネットワークプロトコルである。主に、個々のユーザーがイーサネット経由でADSLトランシーバー (モデム) に接続するADSLサービスや、プレーン・メトロ・イーサネット・ネットワークで使用される。

ディーディーエヌエス

ダイナミックDNSとは、インターネット・プロトコル・スイートを使用するルータやコンピュータ・システムなどのネットワーク接続されたデバイスが、DNSに保存されている設定済みのホスト名、アドレス、その他の情報のアクティブなDNSコンフィギュレーションをリアルタイム (アドホック) で変更するようにドメインネームサーバに通知する機能を提供する方法、プロトコル、またはネットワークサービスのことである。

ハイブリッドDVR

ハイブリッドDVRは、DVRとNVRを組み合わせたものです。

エヌティーピー

Network Time Protocolの略。ネットワーク上のコンピューターの時計を同期させるために設計されたプロトコル。

NTSC

National Television System Committeeの略。米国や日本などで使われているアナログテレビ規格。NTSC信号の各フレームには、60Hzで525本の走査線が含まれる。

NVR

Network Video Recorderの略。NVRは、IPカメラ、IPドーム、その他のDVRの集中管理とストレージに使用されるPCベースまたは組み込みシステムです。

パル

Phase Alternating Lineの略。PALもまた、世界の大部分で放送テレビシステムに使用されているビデオ規格である。PAL信号は50Hzで625本の走査線を含む。

PTZ

パン、チルト、ズームの頭文字。PTZモーター駆動のシステムで、カメラを左右にパン、上下にチルト、ズームイン・ズームアウトすることができます。

USB

Universal Serial Bus（ユニバーサル・シリアル・バス）の略。USBは、デバイスとホスト・コンピュータを接続するためのプラグ・アンド・プレイのシリアル・バス規格です。



遠くを見て、遠くへ